

指導と評価の年間計画 現代文 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
現代文 B	3年	2	現代文 B (数研出版)	最新国語便覧 (浜島書店) 新現代文単語 (いっずな書店)、 意味から学ぶ頻出漢字3000(第一学習社)

科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習活動	<p>①【授業】講義、質疑応答の形で授業をすすめることが中心となります。意見発表やスピーチ、図書館やインターネットを使つてのグループでの調べ学習やプレゼンテーションや、感想文、小論文を作成することもあります。語彙などの基礎力の定着を確認するための小テストなども行います。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力</p> <p>②【家庭学習】 語彙力を高め、定着させるために漢字・語句の意味を調べたり、考えを深めるために、教材を音読して要約を書いたりするなどの予習をします。授業後のノートの整理、理解したことのまとめ直しなどの復習も行います。早い時期から予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。幅広いジャンルの文章に触れるために自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。夏や冬の休業中にもワークブック課題があり、テスト等で自学自習の成果を確認します。 教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p> <p>③【読書のすすめ】 国語力だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めるためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけることによって、文章に読み慣れると同時に、広範な知識や情報を得ることを心がけましょう。 教養力・思考力・省察力・志力</p> <p>※【定期考査、実力テストの活用】 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。省察力・志力</p>				
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○受講・発表態度の観察 ○自己評価	○定期考査 ○課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評論（一）知識社会という幻想「文化が違う」とは何を意味するのか？ ■ 小説（一）舞姫 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 文脈を考えながら語句・表現を読み取る。 <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 共感・疑問・思索などをおして自分の考えを深める。 <input type="checkbox"/> 場面や状況、登場人物相互の関係をとらえる。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心理を場面ごとに追い、その変化をとらえる。 <input type="checkbox"/> 主題をとらえて、人間の心理に対する理解を深める。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこなひ、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評論（二）「である」と「すること」 ■ 評論（三）顔の所有 ■ 小説（三）檸檬 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 文脈を考えながら語句・表現を読み取る。 <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 共感・疑問・思索などをおして自分の考えを深める。 <input type="checkbox"/> 場面や状況、登場人物相互の関係をとらえる。 <input type="checkbox"/> 情景や登場人物の心理を場面ごとに追ひ想像力を働かせて読むと同時に、その変化をとらえる。 <input type="checkbox"/> 主題をとらえて、人間の心理に対する理解を深める。 	
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 問題演習（マーク問題含む） 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 文章の構成や段落相互の関係を的確にとらえる。 <input type="checkbox"/> 本文の展開に即して筆者の主張を理解し要約する。 <input type="checkbox"/> 文章の主題理解・要点把握に重点を置き設問を解くことで、評論では筆者の主張を小説では登場人物の心情の展開を、的確に把握する。 <input type="checkbox"/> 速度や時間配分についても考えて解答する。 	<p>問題ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこなひ、演習を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
備考			

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典 B (文系)

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典 B	3 年	前期 2	高等学校 古典 B (第一学習社)	最新国語便覧 (浜島書店)、 体系古典文法 (数研出版)、古文単語 3 3 0 (い いずな書店)、「小倉百人一首」(文英堂)、 新明説漢文 (尚文出版)

科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習活動	①【授業】 ・音読、朗読、暗唱で古典作品の持つリズム、テンポを体感し、身につけます。古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、ドリルトレーニングや小テストで徹底します。 教養力・表現力 ・基礎的事項習得の確立と並行して、作品の分析解釈を講義、質疑応答形式で学習していきます。 思考力・表現力 ・作者の考えや、主題などについてグループや個人で調べて発表するほか、レポートを作成してもらうこともあります。 協働力・省察力・表現力 ②【家庭学習】 ・現代文分野以上に家庭学習での予習が大切になります。古文は、音読、本文の視写し、品詞分解、現代語訳を行います。漢文は、音読、書き下し文、訓点の記入、現代語訳を行います。辞書をしっかり活用して解釈しましょう。授業内容の整理のためにその日のうちに復習し、予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもワークブック課題があり、休み明けには課題テストで自学自習の成果を確認します。問題演習では、本文中の記述をもとに根拠を持って解答を導くという姿勢を徹底して身につけ、作者の主張や登場人物の心情を、的確に把握する力を養っていきます。 教養力・省察力・志力 ※定期考査、実力テストの活用 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。 省察力・志力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度 古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	読む能力 古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 説話 発心集 今物語 十訓抄 ■ 随筆（一） 枕草子 ■ 物語（一） 源氏物語 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して話の展開をたどる。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心情、場面や情景を理解する。 <input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分なりの考えを深める。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できるようにする 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 逸話 ■ 古代の史話 ■ 宋・元代の文章 ■ 漢詩の鑑賞 ■ 道家・法家の思想 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを理解し、うたわれている情景と心情とを関連付けてとらえる。 <input type="checkbox"/> 作品に描かれた人物、心情、情景などを自分なりに読み味わう。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、演習を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
備考			

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典 B (理系)

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典 B	3年	3	高等学校 古典 B (第一学習社)	最新国語便覧 (浜島書店)、 体系古典文法 (数研出版)、古文単語 3 3 0 (い いずな書店)、「小倉百人一首」(文英堂)、 新明説漢文 (尚文出版)

科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習活動	①【授業】 ・音読、朗読、暗唱で古典作品の持つリズム、テンポを体感し、身につけます。古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、ドリルトレーニングや小テストで徹底します。 教養力・表現力 ・基礎的事項習得の確立と並行して、作品の分析解釈を講義、質疑応答形式で学習していきます。 思考力・表現力 ・作者の考えや、主題などについてグループや個人で調べて発表するほか、レポートを作成してもらうこともあります。 協働力・省察力・表現力 ②【家庭学習】 ・現代文分野以上に家庭学習での予習が大切になります。古文は、音読、視写、品詞分解、現代語訳を行います。漢文は、音読、書き下し文、訓点の記入、現代語訳を行います。辞書をしっかり活用して解釈しましょう。授業内容の整理のためにその日のうちに復習し、予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもワークブック課題があり、休み明けには課題テストで自学自習の成果を確認します。問題演習では、本文中の記述をもとに根拠を持って解答を導くという姿勢を徹底して身につけ、作者の主張や登場人物の心情を、的確に把握する力を養っていきます。 <div style="text-align: right;">教養力・省察力・志力</div> ※定期考査、実力テストの活用 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。 省察力・志力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度 古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	読む能力 古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 説話 発心集 今物語 十訓抄 ■ 随筆 (一) 枕草子 ■ 物語 (一) 源氏物語 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して話の展開をたどる。 <input type="checkbox"/> 筆者のもの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心情、場面や情景を理解する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分なりの考えを深める。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解し、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できるようにする。 	単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 逸話 ■ 古代の史話 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物語 (二) 大鏡 ■ 日記 蜻蛉日記 紫式部日記 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して話の展開をたどる。 <input type="checkbox"/> 筆者のもの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解し、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できるようにする。 	単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、演習を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 史記の群像 ■ 問題演習 (マーク問題含む) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 作品に描かれた人物、心情、情景などを自分なりに読み味わう。 <input type="checkbox"/> 古文は文法事項、漢文は句法・用字法の把握に重点を置いて設問を解くことで、文章の主題を理解し、筆者の主張や登場人物の心情を、的確に把握する。 	
備考	理系古典3単位のうち、古文2単位、漢文1単位、として学習します。		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 国語特講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
国語特講	3年	2 (後期)		最新国語便覧 (浜島書店) 新現代文単語 (いづな書店) 体系古典文法 (数研出版)、古文単語330 (いづな書店)、「小倉百人一首」(文英堂)、 新明説漢文 (尚文出版)

科目の目標	現代社会で通用する語彙力と論理的思考力を養い、社会への視野を広げて自己の考えを的確に表現する力を向上させると同時に、古典を正確に読解する能力や古人の価値観や思想の特色を的確にとらえる力を身につけさせ、作品を読み味わうことによって、ものの見方や考え方を広くし、人生を豊かにする態度を養う。												
学習活動	<p>①【授業】現代文B・古典Bで学んだ内容を、より発展的、応用的に学習します。近代以降の文章、古文及び漢文のすべてを取り上げます。演習が中心となり、複数資料を読解する力も養います。講義、質疑応答形態の他、輪読形態やグループでのディスカッション、個人やグループでのプレゼンテーション等の形態を取り入れます。教材に関連する意見文や小論文を作成することもあります。 教養力・思考力・表現力</p> <p>②【家庭学習】読解のスピードを付けるため、予習では時間を設定し、時間内に解答する訓練をしましょう。漢字や語句の意味調べや要約・あらすじの記述などもあります。授業後はノートを整理し、ポイント事項の復習をします。幅広いジャンルの文章に触れるために、自学自習用の問題集の提出が定期的にあります。教養力・思考力・表現力・省察力</p> <p>③【読書のすすめ】すべての教科の理解力の基盤となるものの見方や感じ方、考え方を広げ深めるためには、幅広いジャンルの読書が必須です。読書習慣を身につけることによって、文章に読み慣れると同時に、広範な知識や情報を得ることを心がけましょう。教養力・思考力・省察力・志力</p> <p>④【定期考査、実力テストの活用】 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。省察力・志力</p>												
未来開拓力	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 </td> <td style="width: 25%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 </td> <td style="width: 25%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 </td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 </td> <td colspan="3" style="vertical-align: top;"> 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 </td> </tr> </table>					教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力		
教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力										
表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力												
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解								
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。								
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○受講・発表態度の観察 ○自己評価	○定期考査 ○課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検								

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論理的文章の読解と批評（一） ■ 問題演習（記述） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 文章構成と論理展開を理解する。 □ 各段落要約と全体要約を行い、論拠に基づく結論(筆者の主張)を正確に把握する論理的思考力を育成する。 □ 同じテーマについて書かれた文章を読み比べることによって、テーマを客観的にとらえ、相対化する姿勢を身につける。 	単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文学的文章の読解と鑑賞（一） ■ 問題演習（記述） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 登場人物の造形や情景描写、比喻を把握し、人物の心情の変化や生き方について理解する。 □ 話し合いや鑑賞文の作成を通して登場人物の生き方や表現の仕方について読み味わい、多様な価値観を知ると同時に、工夫された文体や修辞など表現上の特色を自分の表現に役立てる姿勢を身に付ける。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 古典の読解と鑑賞（一） （ア）古文の作品読解と鑑賞 （イ）漢文の作品読解と鑑賞 ■ 問題演習（記述・マーク） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 古語の意味、古典文法を正しく理解する。 □ 漢字の意味、用字、句法を理解する。 □ 作品の構成や展開に即して作者の主張や登場人物の心情の変化、当時の価値観やものの考え方を理解する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論理的文章の読解と批評（二） ■ 問題演習（記述） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 本文の展開に即して筆者の主張を理解し、要約できる。 □ 提起された問題を様々な角度から吟味し、批評する能力を身に付ける。 □ 自分の論拠の客観性および論拠と結論の妥当性を分析する力を養い、筆者の主張に対する自分の意見を論述できる。 □ 複数資料を活用し、必要な情報を文章にまとめることができる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 古典の読解と鑑賞 （ア）古文の作品読解と鑑賞 （イ）漢文の作品読解と鑑賞 ■ 問題演習（記述・マーク） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 各作品の特徴と文学史的意義や、作品が描かれた時代及び社会背景を理解する。 □ 現代文分野で学習した文化論や芸術論と古典作品とのつながりや、古典をもとに換骨奪胎された近現代の作品を取り上げ、共通点や相違点について考察することによって、作品を読み味わい、ものの見方や考え方を広くし、人生を豊かにする態度を養う。 □ 古典に関連する複数の資料を活用し、必要な情報を文章にまとめ、論述することができる。 	

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典精講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典精講	3年	文系2 (後期)		最新国語便覧(浜島書店)、 体系古典文法(数研出版)、古文単語330(い いずな書店)、「小倉百人一首」(文英堂)、 新明説漢文(尚文出版)

科目の目標	古典に関する基礎知識を定着させ、古典を正確に読解する能力や古人の価値観や思想の特色を的確にとらえる力を身につけさせる。また、作品を読み味わうことによって、ものの見方や考え方を広くし、人生を豊かにする態度を養う。		
未来開拓力	<p>①【授業】古典Bで学んだ文章読解を発展的に学習します。取り扱う教材は、古文、漢文ともに古典Bで学んだ主要作品を中心に、さまざまなジャンルの文章に対応できるよう幅広く設定します。マーク演習が中心となりますが、古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、ドリルトレーニングや小テストで徹底します。また、古典に関連した近代以降の文章など、複数資料を読解する力も養います。講義、質疑応答形態の他、輪読形態や、作者の考えや主題などについてのディスカッション、プレゼンテーション、レポート等を取り入れることもあります。教養力・思考力・表現力・協働力</p> <p>②【家庭学習】読解の基本となる古文単語、古典文法、句法に徹底的取り組み、定着させましょう。問題演習では、本文中の記述をもとに根拠を持って解答を導くという姿勢を徹底させます。読解のスピードを付けるため、予習では時間を設定し、時間内に解答する訓練をします。授業後はノートを整理し、ポイント事項の復習をします。幅広いジャンルの文章に触れるために、自学自習用の問題集の提出が定期的にあります。教養力・思考力・表現力・省察力</p> <p>③【定期考査、実力テストの活用】 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。省察力・志力</p>		
	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力		
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 古典の読解と鑑賞(一) ■ 問題演習 (マーク) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 古文単語と古典文法に則り、本文の記述を根拠に設問を解くことで、文章の主題を理解し、作者の主張や登場人物の心情を、的確に把握する。 □ 漢字の意味や用字、句法に則り、本文の記述を根拠に設問を解くことで、文章の主題を理解し、作者の主張や登場人物の心情を、的確に把握する。 □ 古文、漢文ともに主要作品を中心に扱い、各作品の特徴と文学史的意義や、作品が描かれた時代及び社会背景を理解する。 □ 古文では、当時の価値観やものの考え方、漢文では、中国の価値観や思想を理解する。 □ 登場人物の人間関係や人物像、情景、事件やエピソードの意味等について理解すると同時に、作品世界を読み味わう。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 古典の読解と鑑賞(二) ■ 問題演習 (マーク・記述) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 古文では説話、随筆、物語、日記文学、歌論、擬古文などの幅広いジャンルから複数作品を学習し、当時の社会の価値観やものの見方や考え方を理解する。 □ 漢文では史話、唐宋八家文、思想、漢詩などの幅広いジャンル、あるいは各時代の文章から複数作品を学習し、作品が描かれた時代や社会背景を理解する。 □ 古文単語と古典文法、用字と句法に則り、本文の構成や展開に即して作者の主張や登場人物の心情の変化などを的確に理解する。 □ 現代文分野で学習した文化論や芸術論と古典作品とのつながりや、古典をもとに換骨奪胎された近現代の作品を取り上げ、共通点や相違点について考察することによって、作品を読み味わい、ものの見方や考え方を広くし、人生を豊かにする態度を養う。 	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典研究	3年	文系1 (後期)		最新国語便覧(浜島書店)、 体系古典文法(数研出版)、古文単語330(い いずな書店)、「小倉百人一首」(文英堂)、 新明説漢文(尚文出版)

科目の目標	古典に関する基礎知識を定着させ、古典を読み味わい、古人の価値観や思想の特色を的確にとらえる力を身につけさせる。また、作品を読み味わうことによって、ものの見方や考え方を広げ、人生を豊かにする態度を養う。		
学習活動	<p>①【授業】古典Bで学んだ文章読解を発展的に学習すると同時に、鑑賞にも重点を置きます。教材は、古文においては『枕草子』『源氏物語』『大鏡』『平家物語』『徒然草』など、漢文においては『史記』『三国志』、唐宋八家文など、いずれも「古典B」で学習した主要作品の中から、各自(各グループ)の興味・関心や問題意識に応じて選定します。また、古典に関連した近代以降の文章等、複数資料を用いて比較読みをするなどして、読みを深める学習も行います。形態は、講義、質疑応答形態もありますが、基本的には輪読や、作者の考え・主題などについてのディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成が中心となります。思考力・表現力・協働力</p> <p>②【読書のすすめ】情報化が進化する現代社会において、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにするためには、幅広く古典に親しむことで読書の幅を広げることが必要です。長い歴史の中で蓄積されてきた先人の知識や知恵を継承し、思考力や想像力を伸ばし、豊かな感性や情緒を育むために、読書の習慣を身に付けましょう。教養力・思考力・志力</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

指導と評価の年間計画 現代文精講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
現代文精講	3年	1 (後期)		増補版最新国語便覧（浜島書店） 新現代文単語（いづな書店）

科目の目標	現代社会で通用する語彙力と論理的思考力を身につけさせるとともに、社会への視野を広げて自己の考えを的確に表現する力を身につけさせる。				
学習活動	<p>①【授業】現代文Bで学んだ内容を、より発展的、応用的に学習します。近代以降の様々な文章を扱いますが、論理的な文章（評論）と文学的な文章（小説）では、論理的な文章をより多く取り上げます。言語論、文化論、芸術論、社会科学論、自然科学論等、多くの分野を扱うことによって、知的好奇心を刺激し、幅広い教養を身につけると同時に、現代社会に目を向ける姿勢を養います。演習（記述）が中心となり、複数資料を読解する力も養います。講義、質疑応答形態の他、輪読形態やグループでのディスカッション、個人やグループでのプレゼンテーション等の形態を取り入れます。教材に関連する意見文や小論文を作成することもあります。教養力・思考力・表現力</p> <p>②【家庭学習】読解のスピードを付けるため、予習では時間を設定し、時間内に解答する訓練をしましょう。漢字や語句の意味調べや要約・あらすじの記述などもあります。授業後はノートを整理し、ポイント事項の復習をします。幅広いジャンルの文章に触れるために、自学自習用の問題集の提出が定期的にあります。教養力・思考力・表現力・省察力</p> <p>③【読書のすすめ】すべての教科の理解力の基盤となるものの見方や感じ方、考え方を広げ深めるためには、幅広いジャンルの読書が必須です。読書習慣を身につけることによって、文章に読み慣れると同時に、広範な知識や情報を得ることを心がけましょう。教養力・思考力・省察力・志力</p> <p>④【定期考査、実力テストの活用】 省察力・志力 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。</p>				
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	<input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 授業ノート・課題の点検 <input type="checkbox"/> 自己評価	<input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 自己評価	<input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 課題の点検 <input type="checkbox"/> 自己評価	<input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 課題の点検	<input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 課題の点検

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論理的文章の読解と批評(一) ■ 問題演習 (記述) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 文章構成と論理展開を理解する。 □ 各段落の要約と全体要約を行い、論拠に基づく結論(筆者の主張)を正確に把握する論理的思考力を身に付ける。 □ 同じテーマについて書かれた文章を読み比べることによって、テーマを客観的にとらえ、相対化する姿勢を身に付ける。 	单元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、单元を通じて5つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論理的文章の読解と批評(二) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 本文の展開に即して筆者の主張を理解し、要約できる。 □ 的確な論理の展開や論拠、具体例など、読者を納得させる論述の方法を理解する。 □ 複数資料を活用し、必要な情報を文章にまとめることができる。 	
期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文学的文章の読解と鑑賞 ■ 問題演習 (記述) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 登場人物の造形や情景描写、比喩を把握し、人物の心情の変化や生き方について理解する。 □ 話し合いや鑑賞文の作成を通して登場人物の生き方や作品の表現の仕方について読み味わうと同時に、工夫された文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現に役立てる姿勢を身に付ける。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論理的文章の読解と批評(三) ■ 問題演習 (記述) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 筆者の主張を的確に把握し、提起された問題をさまざまな角度から吟味し、批評できる。 □ 筆者の主張を正確に踏まえたうえで、自分の意見を論述できる。 □ 自分の論拠の客観性および論拠と結論の妥当性を分析する力を身に付ける。 □ 複数資料を活用し、必要な情報を文章にまとめることができる。 	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
世界史 B	3年	3	新詳世界史 B (帝国書院)	世界史 B用語集 (山川出版社) グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社) 世界史重要語句CheckList (啓隆社)

科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 授業は、予習をしてきたうえで単元ごとに探究したい課題・問いを設定し、教科書や資料集などを用い、班学習などを通じた探究活動を中心に進めます。重要事項の補足としてプリントを配布しますので、予習・復習時に教科書・資料集を活用して空欄補充しておくこと。思考力・表現力・協働力・省察力</p> <p>② 授業プリントの空欄補充などを教科書・資料集を活用しておこない予習、復習をします。教養力</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり問題集を解くなどして知識の定着を図ります。教養力</p> <p>※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。志力</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に興味を持っておきましょう。志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の大きな枠組みと流れをとらえることにより、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に判断する。	世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、世界の歴史を我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	単 元	学習内容	学習のねらい	学習活動	
前 期 部	2	4章 環大西洋革命～工業文明と 国民国家の誕生	□イギリスで始まった農業社会から工業社会への移行（工業化、産業革命）について理解させる。またアメリカ独立・フランス革命に始まり、ラテンアメリカにも波及した国民国家の形成の動き（環大西洋革命）について理解させる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。	
		5章 イギリスの覇権と欧米の国民 国家建設	□覇権国家となったイギリスでは、自由主義思想が主潮になったこと、イタリア・ドイツを中心に国民国家形成の動きがさらなる広がりをみせたことを理解させる。またロシアやアメリカ合衆国でも国民国家としての体制が整えられていったことを理解させる。		
		6章 世界の一体化の進展とアジア の変容	□ヨーロッパの世界進出の中、イスラーム世界は軍事的劣勢にたたされたこと、南アジア・東南アジアは植民地化され、東アジアも圧力を受けた状況を理解させる。しかし、その中で、厳しい国際環境に対応する動きが生まれたことや、日本の「近代化」が東アジアにおける国際関係に大きな変化をもたらしたことを理解させる。		
後 期	3	地球社会形成の模索	□世界の一体化が完成していく状況を、産業・社会の変化とともに理解させ、ヨーロッパ各国の動向とアフリカ・オセアニアの分割、アジアにおける体制の変革を総合的に考察させる。 □総力戦として行われた二つの世界大戦の原因と影響を把握し、その惨禍を理解させる。また戦中・戦間期を通して、世界的に社会変革が起こったことを学び、20世紀前半の変動を全体として考察させる。 □アメリカの覇権、冷戦の展開、米ソ二極時代の終焉といった一連の流れとともに、地域紛争、西欧と日本の台頭に伴うアメリカの覇権の動揺、社会主義陣営の分裂と経済の低迷、アジア各地域の動向について理解させ、考察させる。 □冷戦後の世界について政治・経済・文化・宗教などの全体像を学習し、20世紀末から21世紀にかけて新たな世界秩序が模索されていることを理解させる。またグローバル化とその問題点を考察させる。 □設定された主題について、各種資料を収集し教科書を参考にしつつ、さまざまな側面から考察して再構成させる。歴史を把握する技能を習得させることによって歴史的思考力をはぐくみ、主体的に生きる力を養う。		単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
		1章 世界の一体化の完成とその影 響			
		2章 世界大戦の時代			
3章 東西冷戦から多極的国際社 会へ					
4章 相互依存を深める世界					
Skillを高める					

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 日本史B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
日本史B	3年	3単位	詳説日本史（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）

科目の目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	①授業はプリント学習を中心にを行います。その際、より理解度を高めるために史料集や図説なども用いて学習を行います。【教養力・思考力・表現力・省察力・協働力】 ②基本は復習です。週末ごとに1週間の内容を、必ず教科書を読みながら復習しましょう。その際に、出来事・人物にのみ着目せず、時代背景や当時の価値観にも注目し、その時代のイメージをつくり、流れで捕らえましょう。教科書に必要な内容は書いてあります。【教養力・思考力・省察力・志力】 ③覚えることは不可欠ですが、歴史事項の関連性を常に意識することが、授業でも復習でも大切です。【思考力・表現力・省察力・協働力・志力】 ④書物やテレビなどにおいて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。【教養力・志力】			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	歴史的事象の仕組みや人間との関わりについて関心を持ち、積極的に課題を追求しようとするとともに、授業においてプリント教材を積極的に仕上げる。	歴史と人間との因果関係を多方面から分析し、国際社会の変化と関連づけて理解する。また、今後の社会における課題の解決方法を考察し、判断する。	史料の内容を理解するだけでなく、その史料が編纂された歴史的背景についても考察し、発展的に歴史の流れを判断できる。	歴史の系統的知識を身につけ、総合的観点から歴史の流れをとらえることができる。また、授業における発問に対しても積極的な取り組みができる。
評価方法	○授業状況の観察 ○授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○授業プリント ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	単元	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第Ⅲ部	第8章 幕藩体制の動揺 (1)幕政の改革 (2)宝暦・天明期の文化 (3)幕府の衰退と近代への道 (4)化政文化	<input type="checkbox"/> 商品経済の発展に伴う農民層の分解と農村における商品生産の拡大という構造的な変化により幕藩体制の動揺が起こり、農民への負担増、百姓一揆・打ちこわしの頻発となっていくことを理解できる。 <input type="checkbox"/> 文化の大衆化と普及を出版技術の発達、教育の普及の面からも理解できる。 <input type="checkbox"/> 欧米諸国のアジア進出による国際環境の変化と開国により幕藩体制が崩壊へと向かう過程をとらえ、近代社会がどのように形成されていったかを理解することができる。	単元ごとに、「学習活動」①、②、③、④をそれぞれおこなひ、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第Ⅳ部	第9章 近代国家の成立 (1)開国と幕末の動乱 (2)明治維新と富国強兵 (3)立憲国家の成立と日清戦争 (4)日露戦争と国際関係 (5)近代産業の発展 (6)近代文化の発達	<input type="checkbox"/> 日清・日露戦争を経て東アジアで日本が台頭していく過程を、政治・経済・社会と多面的に考察しながら、日本と他国との関係をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 欧米文化と伝統文化が絡み合って近代日本の文化が形成されたことを理解できる。	
後期	第Ⅳ部	第10章 二つの世界大戦とアジア (1)第一次世界大戦と日本 (2)ワシントン体制 (3)市民生活の変容と大衆文化 (4)恐慌の時代 (5)軍部の台頭 (6)第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 (1)占領と改革 (2)冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 (1)55年体制 (2)経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 (1)経済大国への道 (2)冷戦終結と日本社会の動揺	<input type="checkbox"/> 第一次世界大戦による、国際社会における我が国の地位の向上と、大戦が社会・経済に及ぼした影響の概略をとらえて、ワシントン体制下における我が国の国内外の動向を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 満州事変により国内の政治的、経済的な危機打開がはかられる一方、それに伴い政党政治は終焉し、国家主義の高揚とともに国際社会において日本が孤立化していく経緯を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 日本のファシズム体制の進行を背景に、中国侵略その後の太平洋戦争の遂行と国民生活の崩壊の様子を理解できる。 <input type="checkbox"/> 日本の独立・占領政策の変遷を、冷戦構造を中心とした日本を取り巻く国際情勢の変化の中で理解することができる。 <input type="checkbox"/> 二極構造の世界を背景に55年体制が成立し長期の安定保守政権が続く一方、日本経済は高度経済成長に突入し、国民の生活が著しく変化をしていく過程を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 高度経済成長が終わり安定成長の時代に入った日本が、冷戦終結後の世界情勢の変化を受けていかなる立場に置かれているのか、現代に生きる日本人として、今後の日本について考察することができる。	単元ごとに、「学習活動」①、②、③、④をそれぞれおこなひ、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理B	3年	文系4 理系3	新編詳解地理B (二宮書店) 新詳高等地図 (帝国書院)	最新地理図表GEO (第一学習社) 2021データブック・オブ・ザ・ワールド (二宮書店)

科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	① 授業は単元ごとに問いを設け、世界の自然と人間生活への理解を深めていきます。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">教養力・思考力・志力</div> ② 白地図や図表などを用いた作業学習を行い、諸事象に対する空間的な見方を養います。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">思考力・表現力・協働力</div> ③ テストの振り返りや問題集を用いた演習を通じて知識や思考力を身につけます。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">教養力・思考力・省察力</div> ※ 日頃より、身近な地域の姿や国内外の自然や社会についてのテーマに関心を持つことが、地理の学習の深化に繋がります。			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題 発見解決のための知識・技 能	思考力：論理的に考え、批 判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果 や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケー ションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改 善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人 生や社会の未来を拓く力	
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	○現代世界の地理的事象を系統地理的に、また現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識や地理的見方・考え方に関する関心と課題意識を高めたか。それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きるための責任を果たそうとしたか。	○現代世界の地理的事象から課題を見つけ出し、それを系統地理的に、また歴史的背景を踏まえて地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しようとしたか。	○地図や統計、画像等の地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して、地理情報や地図の活用に関する技能を身につけたか。また、仮説を検証し、まとめ、発表する等の技能を身につけたか。	○地図の有用性を理解し地図の活用に関する地理的スキルを理解し、身につけたか。 ○現代世界の諸事象を系統地理的に考察する方法と現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を理解し、身につけたか。 ○現代世界に関する地理的認識や地理的な見方・考え方を理解し、身につけたか
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	2. 資源と産業 ・現代世界の貿易と経済圏 3. 人口、村落・都市 ・世界の人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市・住居問題 4. 生活文化、民族・宗教 ・生活文化 ・民族と宗教 ・現代世界の国家 ・民族・領土問題	<input type="checkbox"/> 現代世界の貿易と経済圏について、世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察する。 <input type="checkbox"/> 世界の人口について、世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を理解する。 <input type="checkbox"/> 人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 <input type="checkbox"/> 村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を理解する。 <input type="checkbox"/> 都市・住居問題について、世界の都市・住居問題を大観し、その要因と発生のしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、都市・住居問題の解決には何が必要かを考察する。 <input type="checkbox"/> 生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について理解する。 <input type="checkbox"/> 民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて理解する。 <input type="checkbox"/> 現代世界の国家について、国境と領域のきまりやさまざまな国家の分類について理解する。 <input type="checkbox"/> 民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後 期	2. 現代世界の諸地域 ・東アジア ・東南アジア ・南アジア ・西アジアと中央アジア ・アフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・北アメリカ ・南アメリカ ・オセアニア ・現代世界と日本 ・マーク式問題演習 ・志望校問題演習	<input type="checkbox"/> 地誌的に考察する様々な方法について理解し、各地域を例に地誌的考察を実践する。 <input type="checkbox"/> マーク式実戦問題に取り組むことにより、既習事項を復習するとともに、基礎力から応用への実戦力を養成する。 <input type="checkbox"/> 志望校の過去問を中心とした記述式問題演習により実戦力を養成する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
世界史研究	3年	2	新詳世界史B（帝国書院）	世界史B用語集（山川出版社） グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）

科目の目標	世界の歴史に関して、自ら課題を設定し、探究的な活動を行う。情報リテラシーを駆使して自ら史資料を探し出し、読み解く活動を通じて幅広い教養、課題設定力、読解力を養うとともに、課題解決力を身につける。			
学習活動	①疑問を深め、探究していく課題を生徒自らが設定する。 思考力・表現力・省察力 ②設定した課題を探究していくために必要な史資料を探す。図書館、インターネットを活用する。 教養力・思考力 ③協働的な活動により、史資料を読解していき、探究課題への答えを探し、まとめ、プレゼンテーションをおこなう。 表現力・志力 ※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。 志力 ※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	思考・判断・表現 世界の歴史についての理解をもとに、人類の課題を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	資料活用の技能 諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	知識・理解 諸地域世界の歴史的特質と交流の様相を把握し、近現代史を中心とする世界の歴史について、我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	前近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	
後期	現代史資料探究	<input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 日本史研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
日本史研究	3年	2	詳説日本史（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）

科目の目標	日本の歴史に関して、自ら課題を設定し、探究的な活動を行う。情報リテラシーを駆使して自ら史資料を探し出し、読み解く活動を通じて幅広い教養、課題設定力、読解力を養うとともに、課題解決力を身につける。			
学習活動	<p>①疑問を深め、探究していく課題を生徒自らが設定する。思考力・表現力・省察力</p> <p>②設定した課題を探究していくために必要な史資料を探す。図書館、インターネットを活用する。教養力・思考力</p> <p>③協働的な活動により、史資料を読解していき、探究課題への答えを探し、まとめ、プレゼンテーションをおこなう。表現力・志力</p> <p>※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。志力</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
		表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力		志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	歴史の因果関係を多方面から分析し、国際社会の変化とも関連づけてながら考察し、その結果を適切に表現する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切にまとめる。	世界の歴史と関連づけながら理解し、探求する過程で必要な知識を身につける。大きな歴史の流れの中で探求課題の歴史的な意義について整理する。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	前近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	
後期	現代史資料探究	<input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅱ	3年 文系	4	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	改訂版クリアー数学ⅡB (数研出版) 増補改訂版チャート式ⅡB (数研出版)

科目の目標	「式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。」という数学Ⅱの目標を問題演習を通して、より確実なものとする。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 思考力・省察力 ③クリアーやチャートから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付ける。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	【数学Ⅰ分野】 第1章 数と式 1 式の計算 2 実数 3 1次不等式 4 集合と命題 第2章 2次関数 1 2次関数とグラフ 2 2次関数の値の変化 3 2次方程式と2次不等式 第3章 図形と計量 1 三角比 2 三角形への応用 第4章 データの分析 【数学Ⅱ分野】 第1章 式と証明 1 式と計算 2 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 1 複素数と2次方程式の解 2 高次方程式 第3章 図形と方程式 1 点と直線 2 円 3 軌跡と領域 第4章 三角関数 1 三角関数 2 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 1 指数関数 2 対数関数 第6章 微分法と積分法 1 微分係数と導関数 2 関数の値の変化 3 積分法 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> 絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 正四面体の体積の求め方を理解する。 <input type="checkbox"/> 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 高次方程式が解 a をもつことを、式を用いて表現できる。 <input type="checkbox"/> $F(x, y) + kG(x, y) = 0$ の形を利用して、2直線の交点を通る直線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 線形計画法では (x, y) の1次式 $= k$ とにおいて、この式が直線を表すことを利用できる。 <input type="checkbox"/> $-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して、変数のおき換えによって三角関数を含む関数の最大・最小を考察できる。 <input type="checkbox"/> $a^x > 0$ に注意して、おき換えによって指数方程式・指数不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 <input type="checkbox"/> 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 <input type="checkbox"/> 3次関数のグラフと x 軸とで囲まれた2つの部分の面積の和を求めることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	問題演習（共通テスト形式）	(各分野の内容を確認するとともに、マークシート形式問題に慣れる。)	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅱ	3年 理系	3	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	改訂版クリアー数学ⅡB (数研出版) 増補改訂版チャート式ⅡB (数研出版)

科目の目標	「式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。」という数学Ⅱの目標を問題演習を通して、より確実なものとする。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 <u>教養力・思考力</u> ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 <u>思考力・省察力</u> ③クリアーやチャートから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 <u>思考力・表現力・志力</u>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付ける。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	【数学Ⅰ分野】 第1章 数と式 1 式の計算 2 実数 3 1次不等式 4 集合と命題 第2章 2次関数 1 2次関数とグラフ 2 2次関数の値の変化 3 2次方程式と2次不等式 第3章 図形と計量 1 三角比 2 三角形への応用 第4章 データの分析 【数学Ⅱ分野】 第1章 式と証明 1 式と計算 2 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 1 複素数と2次方程式の解 2 高次方程式 第3章 図形と方程式 1 点と直線 2 円 3 軌跡と領域 第4章 三角関数 1 三角関数 2 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 1 指数関数 2 対数関数 第6章 微分法と積分法 1 微分係数と導関数 2 関数の値の変化 3 積分法 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> 絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 正四面体の体積の求め方を理解する。 <input type="checkbox"/> 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 高次方程式が解 a をもつことを、式を用いて表現できる。 <input type="checkbox"/> $F(x, y) + kG(x, y) = 0$ の形を利用して、2直線の交点を通る直線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 線形計画法では (x, y) の1次式 $= k$ とにおいて、この式が直線を表すことを利用できる。 <input type="checkbox"/> $-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して、変数のおき換えによって三角関数を含む関数の最大・最小を考察できる。 <input type="checkbox"/> $a^x > 0$ に注意して、おき換えによって指数方程式・指数不等式を解くことができる。 <input type="checkbox"/> 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 <input type="checkbox"/> 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 <input type="checkbox"/> 3次関数のグラフと x 軸とで囲まれた2つの部分の面積の和を求めることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	問題演習（共通テスト形式）	(各分野の内容を確認するとともに、マークシート形式問題に慣れる。)	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅲ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅲ	3年 理系	3	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	改訂版クリア-数学Ⅲ (数研出版) 改訂版チャートⅢ (数研出版)

科目の目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 <u>教養力・思考力</u> ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 <u>思考力・省察力</u> ③クリアーやチャートから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 <u>思考力・表現力・志力</u>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第5章 微分法 1 導関数 2 いろいろな関数の導関数	<input type="checkbox"/> 微分係数、微分可能の定義と、その図形的意味を理解する。 <input type="checkbox"/> 導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数、対数関数、指数関数の導関数を理解し、それらを含む種々の関数の導関数を計算できる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第6章 微分法の応用 1 導関数の応用 2 いろいろな応用	<input type="checkbox"/> 種々の接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 平均値の定理を利用して、不等式を証明する方法を理解している。 <input type="checkbox"/> 関数の増減、凹凸、変曲点、漸近線、定義域、 $x \rightarrow \pm\infty$ のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 方程式 $f(x) = a$ の実数解の個数を、関数 $y = f(x)$ のグラフと直線 $y = a$ の共有点の個数に読み替えて考察できる。 <input type="checkbox"/> 直線上や平面上を運動する点の速度、速さ、加速度の定義を理解し、点の座標が与えられたときにそれらを求めることができる。	
	第7章 積分法とその応用 1 不定積分 2 定積分 3 積分法の応用	<input type="checkbox"/> 被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 上端、下端が x である定積分を x の関数とみることができる。 <input type="checkbox"/> 曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 関数の大小とその関数の定積分の大小との関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 <input type="checkbox"/> 立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき、点が動く道のりを定積分を用いて求めることができる。	
後期	問題演習 (数学Ⅲの復習を行う)	(入試に対応できる実力を養成する)	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 B	3年 文系	1	改訂版 高等学校 数学 B (数研出版)	改訂版クリアー数学Ⅱ B (数研出版) 増補改訂版チャート式Ⅱ B (数研出版)

科目の目標	「ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。」という数学 B の目標を問題演習を通して、より確実なものとする。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 思考力・省察力 ③クリアーやチャートから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
		表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力		志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第3章 数列 1 等差数列と等比数列 2 いろいろな数列 3 漸化式と数学的帰納法 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> 等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。 <input type="checkbox"/> 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 <input type="checkbox"/> 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法を用いて等式、不等式を証明できる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第1章 平面上のベクトル 1 ベクトルとその演算 2 ベクトルと平面図形 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みを理解する。 <input type="checkbox"/> ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> 線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を理解する。 <input type="checkbox"/> 3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 <input type="checkbox"/> 線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 <input type="checkbox"/> 直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線の方程式と関連付けることができる。	
	第2章 空間のベクトル (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。 <input type="checkbox"/> 空間のベクトルを与えられた3つのベクトルで表すことができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> 3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学研究	3年 文系	1	改訂版 高等学校 数学ⅠAⅡB (数研出版)	増補改訂版チャート式ⅠAⅡB(数研出版)

科目の目標	数学ⅠA・ⅡBの各科目の学習の上に立ち、多面的なアプローチによる問題解決能力を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 <u>教養力・思考力</u> ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 <u>思考力・省察力</u> ③クリアーやチャートから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 <u>思考力・表現力・志力</u>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後期	数学Ⅰ 数と式 2次関数 図形と計量 データの分析 数学A 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数、確率、図形の性質、整数の性質について標準的かつ頻出な問題を取り扱うことで基礎力、思考力、論証する力を身に付ける。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	数学Ⅱ 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法 数学B 平面上のベクトル 空間のベクトル 数列	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法、平面上のベクトル、空間のベクトル、数列について標準的かつ頻出な問題を取り扱うことで基礎力、思考力、論証する力を身に付ける。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学特講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学特講	3年 文系	1	改訂版 高等学校 数学ⅠAⅡB (数研出版)	増補改訂版チャート式ⅠAⅡB(数研出版)

科目の目標	数学ⅠA・ⅡBの各科目の学習の上に立ち、多面的なアプローチによる問題解決能力を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 <u>教養力・思考力</u> ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 <u>思考力・省察力</u> ③クリアーやチャートから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 <u>思考力・表現力・志力</u>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後 期	数学Ⅰ 数と式 2次関数 図形と計量 データの分析 数学A 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	数と式、2次関数、図形と計量、データの 分析、場合の数、確率、図形の性質、整数 の性質について、発展的な問題を取り扱うこと で応用力、思考力、論証する力を身に付け る。	単元ごとに、学習「学習活動」の ①、②、③をそれぞれおこない、単 元を通じて4つの観点について評 価をおこなう。
	数学Ⅱ 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法 数学B 平面上のベクトル 空間のベクトル 数列	式と証明、複素数と方程式、図形と方程 式、三角関数、指数関数と対数関数、微分 法と積分法、平面上のベクトル、空間のベクト ル、数列について、発展的な問題を取り扱うこと で応用力、思考力、論証する力を身に付け る。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学総合研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 総合研究	3年 理系	4	高等学校 数学ⅠⅡⅢAB (数研出版)	改訂版クリア-数学 (数研出版) 増補改訂版チャート式ⅠⅡⅢ (数研出版) 改訂版チャート式Ⅲ (数研出版)

科目の目標	数学ⅠA・ⅡB、また生徒の選択に応じて数学Ⅲを加えた各科目の学習の上に立ち、多面的なアプローチによる問題解決能力を養う。また、各科目で学んだことを結び付け、それらを的確に活用する態度を育てるとともに、総合的なアプローチによる問題解決能力を養う。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 思考力・省察力 ③クリアーやチャートから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	数学的思考に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	数学Ⅲ <input type="checkbox"/> 複素数平面 <input type="checkbox"/> 式と曲線 <input type="checkbox"/> 関数 <input type="checkbox"/> 極限 <input type="checkbox"/> 微分法 <input type="checkbox"/> 積分法 (Ⅲは希望選択)	<input type="checkbox"/> 複素数の定義および図形的意味を理解する。 <input type="checkbox"/> 2次曲線と極座標を理解する。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	数学Ⅰ <input type="checkbox"/> 数と式 <input type="checkbox"/> 2次関数 <input type="checkbox"/> 図形と計量 <input type="checkbox"/> 集合と命題 <input type="checkbox"/> データの分析 数学A <input type="checkbox"/> 場合の数と確率 <input type="checkbox"/> 整数の性質 <input type="checkbox"/> 図形の性質 数学Ⅱ <input type="checkbox"/> 式と証明 <input type="checkbox"/> 高次方程式 <input type="checkbox"/> 図形と方程式 <input type="checkbox"/> 三角関数 <input type="checkbox"/> 指数関数と対数関数 <input type="checkbox"/> 微分と積分 数学B <input type="checkbox"/> 数列 <input type="checkbox"/> 平面上のベクトル	<input type="checkbox"/> 既習分野の確認と解法のアプローチ ・既習の数学の各分野について、基本的な事項の深い理解により本科目の基盤を作る。また標準的な解法を身につける。 <input type="checkbox"/> 問題への多面的なアプローチ ・ひとつの問題に対して、異なる科目で学んだ複数の手法でアプローチできることを学ぶ。適宜、説明や討論する場を設定し、言語活動を充実させることで、表現力の定着・向上を図る。	
後期	問題演習	(入試に対応できる実力を養成する)	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理基礎研究（3年文系）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理基礎 研究	3年 文系	2	考える物理基礎 (啓林館)	実験プリント 問題プリント

科目の目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働能力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。思考力・省察力・協働能力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心を持ち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。 観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。 考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

指導と評価の年間計画 化学基礎研究（3年文系）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学基礎研究 (文系)	3年	2	なし	自作教材(プリント) スクエア最新図説化学(第一学習社) 岡山県高等学校理科協議会発行の実験書

科目の目標	化学基礎で扱った内容に関連する発展的・応用的な学習を通して、日常生活や社会生活における、知識の運用力を養う。特に、日常生活や社会に関わりの深い「科学技術とエネルギー」、「人間生活と化学」に関する分野を中心に扱うことで化学に関する事物・現象についての理解を深め、科学的思考力や自然観を育成する。また、それぞれの分野で化学が関わる社会問題に対して、解決しようとする姿勢を育む。						
学習活動	① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組ましよう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ? どうして? という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。 表現力・省察力・協働力 ② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。 思考力・省察力・志力 ③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート(授業プリント)をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。 教養力・表現力・協働力 ④ 課題や小テスト等は、おろそかにせず、普段から基礎固めを丁寧にやりましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。テスト直しのノート(「訂正ノート」)が、あなたの参考書になっているはず。オリジナルのノートに仕上げましょう。 教養力・省察力・志力 ⑤ 日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。 教養力・志力 ※教科書や図説を利用しながら、問題演習にチャレンジしましょう。						
未来開拓力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> 教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 </td> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 </td> </tr> </table>				教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力					
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解			
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査			

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
前 期	<p>1 科学技術とエネルギー</p> <p>2 人間生活と化学</p>	<p><input type="checkbox"/> スチールウールの燃焼実験を通して探究し、化学反応における量的関係について理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 身の回りの現象を通じて、熱化学方程式の理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 反応経路と総熱量の関係について、実習「ヘスの法則」を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 歴史上の電池について、問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 電池の原理について、問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義、酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係、中和と塩について、実習「中和滴定曲線」を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向について、実習「金属のイオン化傾向」を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸化還元反応について、実習「酸化還元反応」を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の溶解と濃度について観察・実験を通して探究し、問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 混合物と純物質、化合物と単体、同素体について問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> セッケンと合成洗剤について、環境問題を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> エネルギー問題の未来について意見交換し、理解を深める。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	3 問題演習	<p><input type="checkbox"/> 教科書の全範囲について、問題演習をおこなうことにより、科学的なものの見方・考え方を醸成する。</p> <p><input type="checkbox"/> 大学入学共通テストに向けた対策問題演習を通じて、化学的に探究する能力を育てる。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物基礎研究（3年文系）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物基礎研究 (文系)	3年	2	なし	自作教材（プリント） ニューステージ生物図表(浜島書店) 岡山県高等学校理科協議会発行の実験書

科目の目標	生物基礎で扱った内容に関連する発展的・応用的な学習を通して、日常生活や社会生活における、知識の運用力を養う。特に、日常生活や社会に関わりの深い「生物と無生物の違い」、「身近な環境が生物に与える影響」に関する分野を中心に扱うことで生物学に関する事物・現象についての理解を深め、科学的思考力や自然観を育成する。また、それぞれの分野で化学が関わる社会問題に対して、解決しようとする姿勢を育む。			
学習活動	① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組ましよう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。 表現力・省察力・協働力 ② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしよう。 思考力・省察力・志力 ③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。 教養力・表現力・協働力 ④ 課題や小テスト等は、おろそかにせず、普段から基礎固めを丁寧に行いましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。テスト直しのノート(「訂正ノート」)が、あなたの参考書になっているはず。オリジナルのノートに仕上げましょう。 教養力・省察力・志力 ⑤ 日頃から、身近な生物に関心を持っておきましょう。 教養力・志力 ※ 教科書や図説を利用しながら、問題演習にチャレンジしましょう。			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力			
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度 自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察・実験の技能 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	知識・理解 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
前 期	<p>1 生物と無生物の違い</p> <p>2 身近な環境が生物へ与える影響</p>	<p><input type="checkbox"/> 「タンパク質の性質」実習を通して酵素（主成分：タンパク質）と温度やpHの関係について理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 「細胞の観察と機能」実習を通じて、細胞構造の理解し、さらに細胞膜の機能について理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 光合成と外的条件の関係について、「光合成と光」実習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 呼吸の過程について、問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 発酵について「アルコール発酵と温度」を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 遺伝子発見の歴史を通じて、科学者達の思考過程や情熱の理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 身近な細胞から遺伝子の実物を、実習「DNAの抽出実験」を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 電気泳動の原理を、実習「電気泳動で見る」で体験し、理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 神経の機能について「甘味の閾値測定」実習を通じて、理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> フェロモンの働きについて、「社会性昆虫を使ってフェロモンの役割を知る」実習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 植物ホルモンの種類と働きを「エチレングスの働き」実習を通じて、理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 生息する生物の種類と土壌の関係を「各土壌と土壌生物」実習を通じて、理解を深める。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	3 問題演習	<p><input type="checkbox"/> 教科書の全範囲について、問題演習をおこなうことにより、科学的なものの見方・考え方を醸成する。</p> <p><input type="checkbox"/> 大学入学共通テストに向けた対策問題演習を通じて、生物学的に探究する能力を育てる。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理	3年 理系	5	物理 (啓林館)	ステップアップノート物理 (啓林館) 物理図録 (数研出版)

科目の目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働能力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。思考力・省察力・協働能力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心を持ち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第3編 波 第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 第3章 光	<input type="checkbox"/> 波の表し方と横波・縦波について観察を通して理解する。 <input type="checkbox"/> 音の様々な現象について、波の観点から観察、実験を通して理解する。 <input type="checkbox"/> 光の様々な現象について波の観点から観察、実験を通して理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。
	第4編 電気と磁気 第1章 電場 第2章 電流 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波	<input type="checkbox"/> 電気を理解するために必要な電場という概念について理解する。 <input type="checkbox"/> 電流がつくる磁場と電流が磁場から受ける力の性質を理解する。 <input type="checkbox"/> 電磁誘導の法則を理解する。 <input type="checkbox"/> 交流回路におけるリアクタンスなど基本的な知識を身につける。	
後期	第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核	<input type="checkbox"/> 電子とX線の発見や、波動と粒子の二重性について科学史的な側面を踏まえて学習し、基本的な知識を身につける。 <input type="checkbox"/> 原子の構造や電子の軌道について科学史的な側面を踏まえて学習し、基本的な知識を身につける。 <input type="checkbox"/> 放射線の性質や核反応について、科学的に正しく理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれ行い、単元を通じて4つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学	3年	5	改訂 化学 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	① 化学的な事物・現象に対する探究心を高めることができるよう、自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の観察実験活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて、化学的に探究する能力と態度を育みましょう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。 表現力・省察力・協働力 ② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。 思考力・省察力・志力 ③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、目的意識をもって、相手の考えを参考に理解を深めましょう。 教養力・表現力・協働力 ④ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。 教養力・省察力・志力 ⑤ 化学の基本的な概念や原理・法則に対する理解を深め、科学的な自然観を養うために、日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。 教養力・志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力			
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■第Ⅱ章 物質の変化と平衡</p> <p>第1節 物質とエネルギー</p> <p>第2節 電池・電気分解</p> <p>第3節 化学反応の速さ</p> <p>第4節 化学平衡</p> <p>第5節 電離平衡</p> <p>■第Ⅲ章 無機物質</p> <p>第1節 非金属元素の単体と化合物</p> <p>第2節 典型金属元素の単体と化合物</p> <p>第3節 遷移元素の単体と化合物</p> <p>第4節 無機物質と人間生活</p> <p>■第Ⅳ章 有機化合物</p> <p>第1節 有機化合物の特徴と分類</p> <p>第2節 脂肪族炭化水素</p> <p>第3節 酸素を含む脂肪族化合物</p> <p>第4節 芳香族化合物</p> <p>第5節 有機化合物と人間生活</p> <p>■第Ⅴ章 高分子化合物</p> <p>第1節 天然高分子化合物－糖類</p> <p>第2節 天然高分子化合物－タンパク質</p>	<p><input type="checkbox"/> 可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味と平衡定数の意味を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> ルシャトリエの原理を理解し、ルシャトリエの原理の応用例としてアンモニアの製法を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 水の電離平衡、弱酸・弱塩基の電離平衡について理解する。pHについての理解を深め、平衡定数の応用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 塩の性質とその反応について、化学平衡の概念から理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 緩衝液とその作用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 溶解度積を理解し、その応用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 元素の分類を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 水素とその化合物、希ガス、ハロゲン・酸素・硫黄・窒素・リン・炭素・ケイ素とその化合物について、性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> アルカリ金属とその化合物、2族元素とその化合物、亜鉛とその化合物、アルミニウムとその化合物、スズ・鉛とその化合物について、性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 遷移元素、鉄・銅・銀・クロム・マンガンとその化合物・金属の単体や合金・セラミックスについて、性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属イオンの定性分析について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン・カルボン酸・エステル・油脂・セッケンについて、その性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 芳香族炭化水素、フェノール類、芳香族カルボン酸、芳香族アミン、アゾ化合物、アニンについてその性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 芳香族化合物の分離の原理を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 食品、界面活性剤、染料、医薬品について、その性質を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 単糖、二糖、多糖について、その構造や性質を理解する。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>第3節 合成高分子化合物</p> <p>■問題演習</p>	<p><input type="checkbox"/> 再生繊維と半合成繊維について、その合成や性質を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> α-アミノ酸、タンパク質、核酸について、その性質や構造などを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 合成高分子化合物について、その分類や重合の種類を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 合成繊維、合成樹脂、機能性高分子、合成ゴムと天然ゴムについて、その構造や性質、用途を学習する。</p> <p><input type="checkbox"/> 合成樹脂の廃棄の問題点とその処理について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 教科書の全範囲について、問題演習をとおして振り返りを行うことにより、知識の定着を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 大学入学共通テストにむけた対策問題演習を通じて、化学的に探求する能力を育てる。</p> <p><input type="checkbox"/> 習熟度別に、二次対策問題演習に取り組み、学力の向上を図る。また、二次対策問題演習を通じて、知識の運用力を養う。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生 物

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物	3年	5	生物 (第一学習社)	生物の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ生物図表(浜島書店) セミナー生物(第一学習社) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	生物や生物現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。思考力・省察力・協働力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて生物・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において生物・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な生物現象について関心をもち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な生物現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第2編 生殖と発生 第4章 生殖と発生 (第4節～) 第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答	<input type="checkbox"/> 動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程、細胞の分化や形態形成のしくみについて誘導現象を中心に理解する。 <input type="checkbox"/> 前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について理解する。 <input type="checkbox"/> 植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学び、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解する。 <input type="checkbox"/> ニューロンの基本的な構造とそのはたらきを理解する。 <input type="checkbox"/> 植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。 <input type="checkbox"/> 環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 第9章 生物の系統 問題演習による総復習	<input type="checkbox"/> 個体群や生物群集について、その特徴を理解する。 <input type="checkbox"/> 生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、個々の個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 <input type="checkbox"/> いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識する。 <input type="checkbox"/> 生命の起源および生物の変遷を理解する <input type="checkbox"/> 生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解する <input type="checkbox"/> 生物の進化のしくみ、分子進化の概念や種分化のしくみについて理解する。 <input type="checkbox"/> 生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解する。 <input type="checkbox"/> DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについて学び、個々の分類群については、その概要を理解する。 <input type="checkbox"/> 問題演習を通して生物の学習内容の定着を図り、大学入試に対応できる力を養う。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 体育

科目	学年	単位数	教科書	副教材
体育	3年	2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)

科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。						
学習活動	<p>①運動の合理的、計画的な実践や体育理論の学習を通して、知識や技能を高め、課題の解決に向けて取り組むことにより、運動のもつ特性や魅力に触れ、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。 教養力</p> <p>②各種の運動を合理的に行うことにより、体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力、生活に応じた運動の計画を立て、主体的に取り組むことができる能力を養います。 思考力・省察力・協働力・志力</p> <p>③運動における競争や協働の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす、チームやグループの意志決定に参画するなどの態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して運動することができる能力や態度を身に付けます。 思考力・省察力・表現力・協働力</p>						
未来開拓力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 </td> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 </td> </tr> </table>				教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力					
評価の観点及び評価規準	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	知識・理解			
	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正・協力・責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。			
評価方法	○活動状況の観察 ○課題への取組	○グループ活動状況の観察 ○グループノート記入 ○感想レポート	○パフォーマンステスト ○新体力テスト ○授業状況の観察	○知識理解テスト			

指導と評価の年間計画 音楽Ⅱ（3年）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽Ⅱ	3年	2	MOUSA 2 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。						
学習活動	<p>・毎回の授業で、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、学習活動を行います。 <u>教養力・表現力・思考力・省察力・協働力・志力</u></p> <p>・歌唱と器楽では一人での演奏や少人数でのアンサンブルなど、編成の特長をいかした表現に取り組みます。演奏におけるアイデアを積極的に試し、表現力を伸ばしましょう。<u>表現力・省察力・協働力</u></p> <p>・「音楽を聴くのは好き」という人は多いのですが、授業での音楽鑑賞は、聴いて楽しむことに留まりません。その音楽に感情を動かされる仕組み、その音楽が登場した時の社会の様子、作曲家の人生と考え方の関わり、といった事柄にも注目します。知ったことから分析したりイメージしたりすることにより、もっと音楽に近づき、新たな魅力にも気づけるのです。<u>協働力表現力・思考力</u></p> <p>・楽譜には、音の高さやリズムだけでなく、多くの情報が記されています。音楽理論や音楽史などを学ぶことにより、記号や文字では記されていないことも読み取れるようになります。音楽Ⅰの内容から発展し、より詳しい内容を学び、楽譜の内容と関連づけ、表現や鑑賞にいかしましょう。<u>教養力</u></p>						
未来開拓力	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 </td> <td style="width: 33%; border-right: 1px dashed black; vertical-align: top;"> 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 </td> </tr> </table>				教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力					
評価の観点及び評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力			
	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。			
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 鑑賞レポート	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 実技テスト <input type="checkbox"/> 演奏発表	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> 実技テスト <input type="checkbox"/> 筆記テスト <input type="checkbox"/> 演奏発表	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> 鑑賞レポート <input type="checkbox"/> 筆記テスト			

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 様々な発声の基礎 日本歌曲 ■ 歌唱・器楽 選択曲 ■ 鑑賞 世界の諸民族の音楽 ■ 歌唱 合唱 ア・カペラ 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 曲種に応じた発声を工夫する。 <input type="checkbox"/> 言葉と音楽の関わりをもたせた表現をする。 <input type="checkbox"/> グループで計画を立て、主体的に学習活動を進める。 <input type="checkbox"/> 表現意図をもった音楽を作り上げ、鑑賞者も楽しめるよう工夫し演奏する。 <input type="checkbox"/> 完成したものを発表・鑑賞し、客観的に評価する。 <input type="checkbox"/> 諸民族の音楽を創造的に鑑賞する。 <input type="checkbox"/> 地域ごとの音楽の歴史や特色などを理解する。 <input type="checkbox"/> 混声(または同声)合唱の楽しさや美しさを味わう。 <input type="checkbox"/> 学習活動を主体的に進め、聴き合いながら歌い、客観的に評価する。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。作品の創作にも取り組む。年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 創作 楽典 変奏曲の作曲 編曲 ■ 鑑賞 舞台芸術 (バレエ) 独奏曲 世界のポピュラー音楽 ■ 創作・器楽 器楽合奏 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本的な楽語を学習し、読みや表記とともに意味を理解する。 <input type="checkbox"/> 音楽を形づくっている要素を理解し、鑑賞・歌唱・器楽の学習に活用する。 <input type="checkbox"/> 作曲家・出演者・演出家などの意図、芸術に対する理解を深める。 <input type="checkbox"/> 世界のポピュラー音楽の変遷と社会的な流れを関連づけて理解する。 <input type="checkbox"/> 既存の楽曲を編曲し、グループで発表に向けた表現活動を主体的に行う。 <input type="checkbox"/> 様々な楽器を用いて基礎的な奏法や特徴ある奏法を学習する。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。作品の創作にも取り組む。年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
美術Ⅱ	3年 文系	2	高校美術 2 日本文教出版	なし

科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
学習活動	・進路に必要な実技を身につける科目です。 教養力・思考力・表現力・省察力・協働力・志力 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱うなど柔軟に学びます。			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・見解のための知識・技能	思考力：倫理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	日常生活における美術やデザインの持つ役割や美術文化について幅広く理解し、その価値を考え、作品のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期 後期	<ul style="list-style-type: none"> ■自由制作①（デッサン・着彩・その他） ■自由制作②（デッサン・着彩・その他） ■自由制作③（デッサン・着彩・その他） ■自由制作④（デッサン・着彩・その他） ■自由制作⑤（デッサン・着彩・その他） 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通) <input type="checkbox"/>自分の進路に応じた課題を選び制作する。 <input type="checkbox"/>立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通) <input type="checkbox"/>自分の進路に応じた課題を選び制作する。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p> <p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
書道Ⅱ	3年 (文系)	2	書Ⅱ(光村図書)	なし

科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			
学習活動	<p>・書道Ⅰで学んだ知識と技能を活かして、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の3つの分野についてより深く学びます。</p> <p>思考力・表現力・省察力</p> <p>・授業は、臨書を中心に行います。「臨書」とは、すぐれた古典作品を手本にして書き、その技法を学ぶことです。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な力と、幅広い表現技法を身に付けます。そして、臨書で身に付けた力を活かして創作にも取り組んでいきます。</p> <p>思考力・表現力・協働力・志力</p> <p>・作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かしていきましょう。</p> <p>省察力・協働力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：倫理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過を分かりやすく伝える力	協働力：多様な他者とのコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
	書を愛好し、書写能力を高め、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行いその喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書的美感しさを感じ取るとともに、自己の感興に応じた表現ができるよう工夫する。	基本的な用筆法・運筆法を身に付けて、その場に応じた表現ができる。	古典作品や自他の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを深く味わうことができる。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字の書（篆書） <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな篆書作品の鑑賞と臨書 ・甲骨文 ・金文 ・小篆 ■ 刻字 <ul style="list-style-type: none"> ・表札の制作 ■ 漢字の書（隷書） <ul style="list-style-type: none"> ・乙瑛碑の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（草書） <ul style="list-style-type: none"> ・十七帖の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（楷書・行書） <ul style="list-style-type: none"> ・集王聖教序の鑑賞と臨書 ・始平公造像記の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（創作） <ul style="list-style-type: none"> ・既習の古典を活かした条幅作品の制作 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 篆書の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> それぞれの古典について特徴を捉え、臨書表現の工夫をする。 <input type="checkbox"/> 刻字の手順・方法を理解し、表現を工夫する。 <input type="checkbox"/> 基本的な刻字の技法を習得する。 <input type="checkbox"/> 隷書の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 草書の特徴を理解し、臨書表現の工夫ができる。 <input type="checkbox"/> 書道 I の学習をもとに楷書、行書の多様な表現への理解をより深める。 <input type="checkbox"/> 古典臨書で学んだ表現技法を活かして漢字創作を行うことができる。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮名の書 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな古筆の鑑賞と臨書 ・高野切第三種 ・関戸本古今集 ・寸松庵色紙 ■ 漢字仮名交じりの書 <ul style="list-style-type: none"> ・用具用材の工夫 ・表現の工夫 ・題材の工夫 ■ 創作（自分の好きな言葉を書く） ■ 完成作品の鑑賞会 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 仮名の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> それぞれの古筆について特徴を捉え、臨書表現の工夫をする。 <input type="checkbox"/> 古筆を基にいろいろな表現方法を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 用具用材の効果を理解し、表現に応用できる。 <input type="checkbox"/> 字形の構成、全体の構成について工夫することができる。 <input type="checkbox"/> 表現方法を自ら構想し、意図に合わせた創作ができる。 <input type="checkbox"/> 他の生徒の良いところ、自分の作品の意図や工夫点を客観的に分析し、発表することができる。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道表現

科目	学年	単位数	教科書	副教材
書道表現	3年 (文系)	2	なし	『中国書道史年表』(二玄社) 『中国法書選』(二玄社)

科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の高める。			
学習活動	<p>・書道Ⅰ、Ⅱで学んだ知識と技能を活かして、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の3つの分野についてより深く学びます。思考力・表現力・省察力</p> <p>・授業は、臨書や創作を行います。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な力と、幅広い表現技法を身に付けます。そして、臨書で身に付けた力を活かして創作にも取り組んでいきます。思考力・表現力・協働力・志力</p> <p>・作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かしていきましょう。省察力・協働力・志力</p>			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：倫理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過を分かりやすく伝える力	協働力：多様な他者とのコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
	書を愛好し、書写能力を高め、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行いその喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書的美感しさを感じ取るとともに、自己の感興に応じた表現ができるよう工夫する。	基本的な用筆法・運筆法を身に付けて、その場に応じた表現ができる。	古典作品や自他の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを深く味わうことができる。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字の書 <ul style="list-style-type: none"> ・臨書 ・創作 ■ 仮名の書 <ul style="list-style-type: none"> ・臨書 ・創作 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 研究する古典を選択し、臨書や鑑賞を通して、用筆法を習得する。 <input type="checkbox"/> 書道史をはじめとする理論を学び、古典の背景を理解する。 <input type="checkbox"/> 臨書で習得した表現方法を活かした漢字創作を行う。 <input type="checkbox"/> 書を構成する要素や表現効果の視点をもって、完成した作品を鑑賞する。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字仮名交じりの書 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> これまでに扱ったことのある古典から選択し、その古典の臨書や鑑賞を通して用筆法を習得する。 <input type="checkbox"/> 漢字と仮名の調和した字形や文字の大きさ、全体の構成となるように工夫する。 <input type="checkbox"/> 書を構成する要素や表現効果の視点をもって、完成した作品を鑑賞する。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 コミュニケーション英語Ⅲ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
コミュニケーション英語Ⅲ (英語ⅢA・C・D)	3年	文系 5 理系 4	LANDMARK English CommunicationⅢ (啓林館)	・新コメタン1(アルク) ・Vision Quest 総合英語(啓林館) ・英文法・語法Vintage(いっずな書店)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って学習し、読む・聞く・話す・書く能力をバランスよく伸ばします。 ・語彙、文章レベルともコミュニケーション英語Ⅱに比べ、高度な内容を学習します。 ・授業の最初リスニング演習(10分程度)、語彙・内容の確認テスト(各Lesson)や、単語or文法の小テスト(新コメタン1/Vintage)を適宜行います。 ・復習により知識の定着を図る必要があることから、Lessonごとに復習テストや課題に取り組んだり、週末課題のプリントを解いたりして応用力をつけていきましょう。 ・語学の学習は、学習を繰り返しこつこつと知識を積み上げる努力が欠かせません。教科書で習ったキーワード、キーセンテンス語彙・構文・文法は、時間がかかっても、きちんと覚えましょう。 ・副教材を用いて語彙力・文法力等を高めていくことが、速く正確な読解力をつけるために不可欠ですから、積極的に時間を見つけて繰り返し学習しましょう。 ・英会話教材、洋画・洋楽、英字新聞等も英語学習に役立ちますので、積極的に活用しましょう。 			
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見解決のための知識 ・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 	
評価の観点及び評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語とその運用についての知識を身に付ける同時に、言語の背景にある文化も理解している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題考査

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期 第 1 回 考 査	Lesson 1 Caffeine : The World's Favorite Drug Lesson 2 Blood is Blood Lesson 3 Australia and its Creatures	<input type="checkbox"/> さまざまな飲食物に含まれるカフェインの利点と欠点についての文章を読み取る。 <input type="checkbox"/> 血液の研究と差別撤廃に障害を捧げた黒人医師についての文章を読み取る。 <input type="checkbox"/> オーストラリアのユニークな生態系とその秘密についての文章を読み取る。	○ディスコースマーカ―や文構造に注意しながら、論説文、説明・物語文などを読み、内容や情報を整理し、理解を確認する。 ○本文の大意を把握し、英語で要約と感想を述べる。
前 期 第 2 回 考 査	Lesson 4 The \$ 1000,000 Salt and Papper Shaker Lesson 5 Bililingual Effects in the Brain Lesson 6 Communication without Words	<input type="checkbox"/> \$100,000の価値のある塩こしょう入れについての文書を読み取る。 <input type="checkbox"/> バイリンガルの人々の脳の構造についての文章を読み取る。 <input type="checkbox"/> コミュニケーションの70パーセントを占める身体言語についての文章を読み取る。	○学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に書く。 ○新出単語・イディオムを学習し、日本語から英語への自動化を図る。
後 期 第 3 回 考 査	Lesson 7 Political Correctness Lesson 8 Animal Math Lesson 9 The Story of My Life	<input type="checkbox"/> 差別や偏見のない中立的な用語の利点と問題点についての文章を読み取る。 <input type="checkbox"/> 自然界で生き残る秘訣である数学についての文章を読み取る。 <input type="checkbox"/> サリバン先生がヘレンケラーに教えた愛についての文章を読み取る。	○文法問題に取り組み、その文法事項を使って自分の意見を述べる。 ○グループで与えられたトピックについて話す。
後 期 第 4 回 考 査	Lesson 10 Extinction of Languages Lesson 11 Learning a First Culture Lesson 12 Light Pollution	<input type="checkbox"/> 文化や伝統そのものである言語の消失危機についての部員賞を読み取る。 <input type="checkbox"/> 文化によって異なる社会の構築過程についての文章を読み取る。 <input type="checkbox"/> 光害がもたらす様々な問題点についての文章を読み取る。	

* 速読、多読、リスニング力の強化を目指した補助教材を追加します。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語表現Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語表現Ⅱ (英語ⅡB)	3年	2	Vision Quest English Expression Ace (61 啓林館 英Ⅱ322)	・総合英語 Vision Quest(啓林館) ・-estエスト英作文(エスト出版) ・英文法・語法Vintage (いいずな書店)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や問題集に沿って学習し、読む・聞く・話す・書く能力をバランスよく伸ばします。 ・英語表現Ⅱの内容を復習しながらより高度な内容を学習します。 ①新出単語・イディオムを学習し、日本語から英語への自動化を図る。 ②文法問題に取り組み、その文法事項を使って自分の意見を述べる。 ※授業で速読やリスニング演習、例文などの小テストを行います。 ③ディスコースマーカ―や文構造に注意しながら、論説文、説明・物語文などを読み、内容や情報を整理し、理解を確認する。 ※知識の定着や運用を図るためワークブックや補助プリントを用いて応用力をつけていきます。 ④本文の大意を把握し、英語で要約と感想を述べる。 ⑤学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に書く。 			
未来開拓力	教養力 幅広い教養と課題発見解決のための知識・技能	思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題考査

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前 期	Vision Quest Part 2 Lesson 1 文と文をつなぐ Lesson 2 ロボットの有用性 Lesson 3 英語を学ぶ意義 Lesson 4 都会と田舎 Lesson 5 深刻な黄砂問題 Lesson 6 ベジタリアン Lesson 7 リスニングの要約 Vision Quest Part 3 Lesson 1 プレゼンテーション (Presentation) Lesson 2 ディスカッション (Discussion) Lesson 3 デイバート (Debate) 入試問題演習	<input type="checkbox"/> 文と文をつなぐ <input type="checkbox"/> パラグラフの構成 <input type="checkbox"/> 列挙・順序 <input type="checkbox"/> 例示・追加 <input type="checkbox"/> 比較・対照 <input type="checkbox"/> 原因・理由・結果 <input type="checkbox"/> リーディングの要約 <input type="checkbox"/> リスニングの要約 <input type="checkbox"/> プレインストーミング <input type="checkbox"/> 資料を探す <input type="checkbox"/> アウトラインの作成 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの原稿／表現 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの準備／実施 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの質疑応答 <input type="checkbox"/> 発表者の評価 <input type="checkbox"/> Practice <input type="checkbox"/> ディスカッションの進め方／例 <input type="checkbox"/> ディスカッションに役立つ表現 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> Practice <input type="checkbox"/> デイバートの進め方／デイバートの準備 <input type="checkbox"/> デイバートを行う上での注意点／判定／表現 <input type="checkbox"/> Practice 問題演習に取り組み、共通テストおよび2次試験などの入試に対応できる英語表現能力を身につける。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④を音読練習やペアワークを通しておこない、英語で表現する活動を通じて、4つの観点について評価をおこなう。
後 期	入試問題演習		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 GLOBAL ENGLISH II

科目	学年	単位数	教科書	副教材
GLOBAL ENGLISH III	3年	1		<ul style="list-style-type: none"> ・Revised LANDMARK English Communication II(啓林館) ・Active Listening(第一学習社) ・新コメタン①(アルク)

科目の目標	情報を伝えたり、意見交換をしたりするための基本となる知識を身につけ、自分の意見や考えをまとまりのある英語でアウトプットしたりすることで、リスニング・スピーキングを中心とした5領域にわたる英語運用能力を伸長させる。			
学習活動	<p>(1) サマライジング 日常生活の身近な話題や社会的な話題について、また既習の英文の内容について、聞いたり読んだりした概要をまとめる活動 【思考力】【表現力】</p> <p>(2) インタラクション 日常生活の身近な話題や社会的な話題について、ペアで意見交換する活動。既習の英文の内容についてグループで意見交換する活動 【教養力】【表現力】</p> <p>(3) プレゼンテーション 既習の英文のトピックについて書いた意見を相手に伝える活動 (ポスター発表等) 【思考力】【表現力】【協働性】【省察力】</p>			
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・協働性 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 	
評価の観点及び評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語を聞いて反射的に答えようとする姿勢がある。	与えられた状況において英語で適切に話したり伝えたり、自らの意見を適切な表現を用いて伝えたりすることができる。	話し相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に応答したり、発言者や発言者の言ったことを正しく聞き取ったりすることができる。	様々なトピックについて内容やその背景等を理解したり、各レッスンで学んだ文法・表現を理解したりし、知識として定着させている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検 ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○パフォーマンステスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	ターム①：Listening中心の活動 ・Lesson1からLesson9	■ Listening中心の活動 ・Summarizing <input type="checkbox"/> 日常生活の身近な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、要点を把握することができる。 <input type="checkbox"/> 日常生活の身近な話題や社会的な話題について、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要をまとめることができる。	各定期考査間の区切りを「ターム」とし、各ターム毎にスピーキング中心とリスニング中心の活動を交互に行う。 ターム①：Listening ・Summarizing ・定期考査
	ターム②：Speaking中心の活動 ・I'm the Strongest! ・Tokyo's Seven-minute Miracle	■ Speaking中心の活動 ・Interaction <input type="checkbox"/> 既習の英文の内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方を習得し、それらを用いて情報や考えや気持ちなどを即興で話して伝え合うことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対して反射的に答える習慣や的確かつ簡潔に答える力を身につけ、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話すことができる。	ターム②：Speaking 山形スピークアウト方式 教科書を2度使う→定着→発信 ・Interaction ・Summarizing ・Presentation
	ターム③：Listening中心の活動 Lesson10から18	・Summarizing <input type="checkbox"/> 既習の英文を読んで、その内容を要約し、それらの問題について自分の考えや意見を述べたり発表したりすることができる。	ターム③：Listening ・Summarizing ・定期考査
	ターム④：Speaking 中心の活動 ・Edo: A Sustainable Society ・AI and Our Future	・Presentation <input type="checkbox"/> 既習の英文のトピックについて、使われた語句や文等を復習し、それらを活用しながら書いた意見を、ポスター等を利用して発表することができる。	ターム④：Speaking 山形スピークアウト方式 教科書を2度使う→定着→発信 ・Interaction ・Summarizing ・Presentation
後 期	ターム⑤：Listening中心の活動 ・Lesson19から25	■ 共通 <input type="checkbox"/> ペア・グループワークにおいて、英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を持つことができる。 <input type="checkbox"/> 教材の内容と文化的・習慣的背景を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 学習する語句や表現を理解し、口頭練習を繰り返し定着させることができる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができる。	ターム⑤：Listening ・Summarizing ・定期考査 年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語研究	3年	1		・NEWSBREAKS for STANDARD (エミル出版)

科目の目標	「コミュニケーション英語 I・II」「英語表現 I・II」の学習成果の上に、日常生活などの身近な話題や時事的な内容についての発展的な学習内容・テーマを用い、特にリーディング・ライティングを中心とした5領域にわたる英語運用能力をさらに伸長させる。			
学習活動	<p>(1)テーマ演習</p> <p>①英文構造理解 日常生活などの身近な話題や時事的な内容についての様々なテーマの英文を読み、英語で自分の考えや意見を述べるために、日本語と英語の表現の違いについて分析・理解し、適切な表現ができる能力を養う。 【思考力】【表現力】</p> <p>②文章構成理解 英語の文章の展開方法を学習し、英語で書かれた文章や話された内容を的確に理解し、情報を整理することができる能力を養う。パラグラフの展開方法を学ぶ。 【思考力】【表現力】</p> <p>(2)プレゼンテーション 学んだことをもとに、日常生活などの身近な話題や時事的な内容について自ら課題を設定し、それについて調査し、自分の意見を英語で述べる活動をする。 【教養力】【表現力】</p>			
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語を聞いて反射的に答えようとする姿勢がある。	与えられた状況において英語で適切に話したり伝えたり、自らの意見を適切な表現を用いて伝えたりすることができる。	話し相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に応答したり、発表者や発言者の言ったことを正しく聞き取ったりすることができる。	様々なトピックについて内容やその背景等を理解したり、各レッスンで学んだ文法・表現を理解したりし、知識として定着させている。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○パフォーマンステスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	(1) テーマ演習	<p>○日常生活などの身近な話題や時事的な内容についての様々なテーマに関する英文を読み、事実や意見を整理・理解し、要約する。</p> <p>○パラグラフの展開方法など英語の文章の展開方法を学習し、英語で書かれた文章や話された内容を的確に理解し、情報を整理することができる能力を養う。</p> <p>○英語で自分の考えや意見を述べるために、日本語と英語の表現の違いについて分析・理解し、適切な表現ができる能力を養う。</p> <p>○ペアやグループで日本との類似点や相違点、諸問題の解決方法などについて話し合い、考えをまとめ発表する。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の(1)①②、(2)を音読練習やペアワークを通しておこない、英語で表現する活動を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>
	1 Factor X” Covid-19		
	2 About Viruses		
	3 Ocean Plastic Waste		
	4 Billie Eilish		
	5 Achieving Gender Equality		
	6 The 2020 U.S. Presidential Election		
	7 Digital Tax		
	8 Gaming Disorder		
	9 Dynamic Pricing		
	10 The New Coronavirus and Economy		
後 期	11 All About 5G	<p>○テーマ演習で学んだことをもとに、日常生活などの身近な話題や時事的な内容について自ら課題を設定し、それについて調査し、自分の意見を英語で述べる活動をする。</p>	
	15 Mars Rovers		
期	(2) プレゼンテーション		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語精購

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語精購	3年	1		・自主教材

科目の目標	情報を伝えたり、意見交換をしったりするための基本となる知識を身につけるために、会話文やまとまりのある文章を聞き取ったり読んだりすることで、リスニング・スピーキングを中心とした5領域（聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと）に5領域にわたる英語運用能力をさらに伸長させる。			
学習活動	(1) 英語で表現された意見や考えを聞き取る活動（リスニング） 日常的な会話や身近なトピックについてのまとまりのある英文を聞き取り、その概要を理解する。 【思考力】【教養力】			
	(2) (1)の活動（リスニング）で聞き取った内容の理解を深める活動 聞き取った内容をNote-takingやDictationを通じて、理解を確実なものにする。 【思考力】【教養力】			
	(3) (2)の活動で理解した内容を相互に英語で伝える活動（インタラクション） Note-takingを用いたReproductionやDictationをもとにしたOUTPUT活動を行う。 【教養力】【表現力】【協働力】			
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、自己を表現したり、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語を聞いて反射的に答えようとする姿勢がある。	与えられた状況において英語で適切に話したり伝えたり、自らの意見を適切な表現を用いて伝えたりすることができる。	話し相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に応答したり、発表者や発言者の言ったことを正しく聞き取ったりすることができる。	様々なトピックについて内容やその背景等を理解したり、各レッスンで学んだ文法・表現を理解したりし、知識として定着させている。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○パフォーマンステスト	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○パフォーマンステスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	(1) 英語で表現された意見や考えを聞き取る活動（リスニング） (2) (1)の活動（リスニング）で聞き取った内容の理解を深める活動 (3) (2)の活動で理解した内容を相互に英語で伝える活動（インタラクション）	○日常的な会話や身近なトピックについてのまとまりのある英文を聞き取り、その概要を理解する。 ○聞き取った内容をNote-takingやDictationを通じて、理解を確実なものにする。 ○Note-takingを用いたReproductionやDictationをもとにしたOUTPUT活動を行う。	・(1)～(3)の活動を3時間1パッケージとして行い、その活動を繰り返すものとする。
後 期			

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 人文社会探究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
人文社会探究	3年 文系	1	今まで他教科、科目で使用した教科書や資料	

科目の目標	習得した知識や経験を、横断的・総合的に活用し、自然科学分野の諸問題について探究する学習を通して、思考力・創造力、表現・発信力等の新しい時代に求められる探究力を育成する。		
学習活動	「読む」「書く」「議論する」「書く」の探究サイクルで、現代社会の諸問題を深く学ぶ。		
	<p>(1) 文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握し、自分の考えを論理的かつ説得力のある文章等で表現するための方法についての講義。 教養力</p> <p>(2)「読む」 日本語・英語で書かれた、現代社会の諸問題に関する小論文や評論文、時事問題に関する新聞記事などを題材に、読むポイントを学ぶ活動。 教養力・思考力</p> <p>(3)「書く」 課題に対する自分の考えを整理し、論理的かつ説得力のある文章等で表現する活動。 思考力・表現力</p> <p>(4)「議論する」 自分の文章等を他人のものと比較し、議論することを通して、多面的で批判的な思考力を養う共同学習。 思考力・省察力・協働能力</p> <p>(5)「書く」 (3)(4)の活動をもとに自分の文章をより論理的かつ説得力のある文章等で表現する活動。 表現力・省察力</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識及び技能	思考力、表現力	省察力、協働能力、志力
	・現代社会の諸問題の中から選び与えられた課題に対して、基本的な知識をもっている。 ・与えられた課題を、要旨や要点を把握しながら読むことができる。	・与えられた課題に対して、自分の立場を明確にし、考察することができる。 ・自分の考えを、論理的かつ説得力のある文章で表現することができる。	・様々な角度から検証し、他者の意見を参考にすることで、与えられた課題に対する自分の考えを整理することができる。 ・他人と議論することを通して、自分の知識を広げ、思考力や表現力を向上させることができる。
評価方法	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検

年間指導計画

月	学習内容	学習のねらい	学習活動
4 ・ 5 月	基本技能の学習	<input type="checkbox"/> 小論文と作文の違いが説明できる。 <input type="checkbox"/> 小論文の基本的構成を理解する。 <input type="checkbox"/> 説得力のある小論文を作成する方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 小論文を書く基本技能を理解する。	○実習では「学習活動」の(2)～(5)をそれぞれおこない、3つの観点について評価をおこなう。
6 ・ 7 月	実習（課題①） (1)「読む」 (2)「書く」 (3)「議論する」 (4)「書く」	(1)与えられた題材について <input type="checkbox"/> 要旨や要点を把握しながら読むことができる (2)(1)の題材に対する自分の考えについて <input type="checkbox"/> 論理的な文章で表現できる。 <input type="checkbox"/> 説得力のある文章で表現できる。 (3)(2)の文章と他者の文章の比較について <input type="checkbox"/> 相違点を指摘できる。 <input type="checkbox"/> 相違点を次の視点で分析できる。 ・論理的な違い ・説得力の違い <input type="checkbox"/> 相違点について論理的に議論できる。 (4)自分の文章の修正について <input type="checkbox"/> 論理的な部分を修正できる。 <input type="checkbox"/> 説得力の部分で修正できる。	○扱う題材は、現代社会の諸問題や時事問題に関する評論文や新聞記事等の中から、次の視点で選ばれたものである。 (1)教科の枠を超えた、複合的な視点に立って思考できる課題 (2)他の教科・科目で学習して得た様々な知識を活用して答えを導くことができる課題 ○様々な形式の課題を扱うので、それぞれに適した対応を学ぶ。 例:テーマ型、課題文型、データ型、融合型、複数課題型
8 月	志望理由書の作成	自分の志について <input type="checkbox"/> 論理的な文章で表現できる。 <input type="checkbox"/> 説得力のある文章で表現できる。	
後 期	実習（課題②～⑥） (1)「読む」 (2)「書く」 (3)「議論する」 (4)「書く」	課題①と同じねらいで取り組む。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 自然科学探究Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
自然科学探究Ⅱ	3年理系	1	自作教材	岡山県高等学校理科協議会発行の実験書

科目の目標	習得した知識や経験を、横断的・総合的に活用し、自然科学分野の諸問題について探究する学習を通して、思考力・創造力、表現・発信力等の新しい時代に求められる探究力を育成する。		
学習活動	<p>「課題設定」「観察・実験」「成果発表」の探究サイクルで、自然科学の諸問題を深く学ぶ。</p> <p>(1)「リインテナーション&ガイダンス」 教養力・思考力 既習の原理や法則についてのまとめ、対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能についての講義等。</p> <p>(2)「課題設定」 思考力・省察力・協働力 事象を観察し、課題を把握・設定する活動。</p> <p>(3)「仮説設定と計画立案」 教養力・思考力・省察力・協働力 習得した知識や経験を活用し、仮説を設定、検証計画をプランニングする活動。</p> <p>(4)「観察・実験」 思考力・表現力・省察力・協働力 観察・実験等とその結果の整理、考察、結論の導出の活動。</p> <p>(5)「成果発表」 表現力・省察力・協働力・志力 (4)の成果を共有・検証する、発表・議論などの活動。</p> <p>※学習の取り組み方のポイント</p> <p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。</p> <p>②【わくわくを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。</p> <p>③【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識及び技能 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できている。	思考力、表現力 実際の現象と自然界の法則との関わりから問いを見だし、自分で仮説を立て、観察・実験を通して情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができている。	省察力、協働力、志力 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、課題についての理解を深め、多様な他者との協働により、よりよい社会を実現しようとする態度を持っている。
評価方法	○ワークシート・レポート等の成果物 ○自己評価・相互評価	○活動の状況などの観察 ○ワークシート・レポート等の成果物 ○自己評価・相互評価	○活動の状況などの観察 ○ワークシート・レポート等の成果物 ○自己評価・相互評価

年間指導計画

学期	学習活動	活動内容	評価の観点					
			A	B		C		
			教 養 力	思 考 力	表 現 力	省 察 力	協 働 力	志 力
前期 ・ 後期	テーマ1 (化学基礎ですでに学習した分野のうち、一定の範囲の中から、探究する事象を決めたテーマ)	○必要な知識及び技能についての講義	○	○				
		○課題を設定、検証可能性の吟味		○		○	○	
		○課題解決に至る仮説を設定	○	○		○	○	
		○観察・実験の計画を立案	○	○		○	○	
		○観察・実験		○	○	○	○	
		○結果を考察、結論を導出		○	○	○	○	
		○考察等の成果を発表、振り返り			○	○	○	○
	テーマ2 (化学基礎・化学で、すでに学習した分野のうち、一定の範囲の中から、探究する事象を決めたテーマ)	○必要な知識及び技能についての講義	○	○				
		○課題を設定、検証可能性の吟味		○		○	○	
○課題解決に至る仮説を設定		○	○		○	○		
○観察・実験の計画を立案		○	○		○	○		
○観察・実験			○	○	○	○		
○結果を考察、結論を導出			○	○	○	○		
○考察等の成果を発表、振り返り				○	○	○	○	
テーマ3 (化学基礎・化学で、すでに学習した分野のうち、一定の範囲の中から、探究する事象を決めたテーマ)	○必要な知識及び技能についての講義	○	○					
	○課題を設定、検証可能性の吟味		○		○	○		
	○課題解決に至る仮説を設定	○	○		○	○		
	○観察・実験の計画を立案	○	○		○	○		
	○観察・実験		○	○	○	○		
	○結果を考察、結論を導出		○	○	○	○		
	○考察等の成果を発表、振り返り			○	○	○	○	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 小論文精講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
小論文精講	3年	1	今まで他教科、科目で使用した教科書や資料	

科目の目標	習得した知識や経験を、横断的・総合的に活用し、自らの考えを論理的かつ説得力のある文章で表現する活動を通して、思考力・創造力、表現・発信力等の新しい時代に求められる探究力を育成する。		
学習活動	(1) 小論文とは何か、小論文の基本構成、より説得力のある小論文作成の方法等、小論文を書く基本技能についての講義。 【教養力、表現力】 (2) 現代社会の諸問題や時事問題に関する評論文や新聞記事等を題材に、それらについて情報を収集し、自分の考えを整理する活動。 【思考力、省察力】 (3) 課題に対する自分の考えを、論理的かつ説得力のある文章で表現する活動。 【思考力、表現力】 (4) 自分の文章を他人のものと比較し議論することを通して、表現方法の知識を広げるとともに、多面的で批判的な思考力を養う共同学習。 【省察力、協働力】		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題 発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識	思考力、表現力	省察力、協働力、志力
	・小論文作成について、基本的な知識や技能を身につけている。 ・与えられた課題に対する基本的な知識をもっている。	・与えられた課題に対する情報を適切に収集し、自分なりに考察することができる。 ・自分の考えを、論理的かつ説得力のある文章で表現することができる。	・様々な角度から検証し、他者の意見を参考にすることで、与えられた課題に対する自分の考えを整理することができる。 ・他人と議論することを通して、自分の知識を広げ、思考力を向上させることができる。
評価方法	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後 期	基本技能の学習	<input type="checkbox"/> 小論文と作文の違いが説明できる。 <input type="checkbox"/> 小論文の基本的構成を理解する。 <input type="checkbox"/> 説得力のある小論文を作成する方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 小論文を書く基本技能を理解する。	<p>○扱う題材は、現代社会の諸問題や時事問題に関する評論文や新聞記事等の中から、次の視点で選ばれたものである。</p>
	実習①	<p>(1)与えられた題材について</p> <input type="checkbox"/> 情報を適切に収集できる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを整理できる。	<p>(1)教科の枠を超えた複合的な視点に立って思考できる課題 (2)他の教科・科目で学習して得た様々な知識を活用して答えを導くことができる課題</p> <p>○実習では、次の活動に取り組む。 (1-1)情報の収集 (1-2)自分の考えの整理 (2)文章の作成 (3-1)他者との比較 (3-2)他者との議論 (4)自分の文章の修正</p>
	実習②～⑥	<p>(2)(1)の題材に対する自分の考えについて</p> <input type="checkbox"/> 論理的な文章で表現できる。 <input type="checkbox"/> 説得力のある文章で表現できる。	
		<p>(3)(2)の文章と他者の文章の比較について</p> <input type="checkbox"/> 相違点を指摘できる。 <input type="checkbox"/> 相違点を次の視点で分析できる。 ・論理的な違い ・説得力の違い <input type="checkbox"/> 相違点について論理的に議論できる。	
		<p>(4)自分の文章の修正について</p> <input type="checkbox"/> 論理的な部分を修正できる。 <input type="checkbox"/> 説得力の部分で修正できる。	
		<p>他の題材について、実習①と同様の学習のねらいをもって、学習活動をおこなう。</p>	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 コミュニケーション精講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
コミュニケーション精講	3年	1	今まで他教科、科目で使用した教科書や資料	

科目の目標	習得した知識や経験を、横断的・総合的に活用し、自らの考えを論理的かつ説得力のある文章で表現する活動を通して、思考力・創造力、表現・発信力等の新しい時代に求められる探究力を育成する。		
学習活動	<p>(1) 口頭でのプレゼンテーションの基本構成、より説得力のあるプレゼンテーション作成の方法等、口頭説明の基本技能についての講義。 【教養力、表現力】</p> <p>(2) 現代社会の諸問題や時事問題に関する評論文や新聞記事等を題材に、それらについて情報を収集し、自分の考えを整理する活動。 【思考力、省察力】</p> <p>(3) 課題に対する自分の考えを、論理的かつ説得力のある言葉等で表現する活動。 【思考力、表現力】</p> <p>(4) 自分の表現を他人のものと比較し議論することを通して、表現方法の知識を広げるとともに、多面的で批判的な思考力を養う共同学習。 【省察力、協働力】</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識	思考力、表現力	省察力、協働力、志力
	・口頭でのプレゼンテーションについて、基本的な知識や技能を身につけている。 ・与えられた課題に対する基本的な知識をもっている。	・与えられた課題に対する情報を適切に収集し、自分なりに考察することができる。 ・自分の考えを、論理的かつ説得力のある言葉等で表現することができる。	・様々な角度から検証し、他者の意見を参考にすることで、与えられた課題に対する自分の考えを整理することができる。 ・他人と議論することを通して、自分の知識を広げ、思考力を向上させることができる。
評価方法	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後 期	基本技能の学習	<input type="checkbox"/> プレゼンテーションの基本的構成を理解する。 <input type="checkbox"/> 説得力のある説明をする方法を理解する。 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションを作成する基本技能を理解する。	○扱う題材は、現代社会の諸問題や時事問題に関する評論文や新聞記事等の中から、次の視点で選ばれたものである。 (1)教科の枠を超えた複合的な視点に立って思考できる課題 (2)他の教科・科目で学習して得た様々な知識を活用して答えを導くことができる課題
	実習①	(1)与えられた題材について <input type="checkbox"/> 情報を適切に収集できる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを整理できる。 (2)(1)の題材に対する自分の考えについて <input type="checkbox"/> 論理的な言葉等で表現できる。 <input type="checkbox"/> 説得力のある言葉等で表現できる。 (3)(2)の文章と他者の表現の比較について <input type="checkbox"/> 相違点を指摘できる。 <input type="checkbox"/> 相違点を次の視点で分析できる。 ・論理的な違い ・説得力の違い <input type="checkbox"/> 相違点について論理的に議論できる。 (4)自分の表現の修正について <input type="checkbox"/> 論理的な部分を修正できる。 <input type="checkbox"/> 説得力の部分で修正できる。	○実習では、次の活動に取り組む。 (1-1)情報の収集 (1-2)自分の考えの整理 (2)表現(プレゼン)の作成 (3-1)他者との比較 (3-2)他者との議論 (4)自分の表現の修正
	実習②～⑥	他の題材について、実習①と同様の学習のねらいをもって、学習活動をおこなう。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 子どもの発達と保育

科目	学年	単位数	教科書	副教材
子どもの発達と保育	3年	2	子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う (教育図書)	/

科目の目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。			
学習活動	<p>・保育のさまざまな分野が主体的に学べるよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、残りが実習・演習などの実践的・体験的な学習です。 教養力 思考力</p> <p>・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。 思考力 表現力</p> <p>※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。 協働力 省察力</p> <p>※実際に乳幼児に接したり、保育者の話を聞いたりすることは授業内容に理解を深めてくれます。実習には意識を持って取り組み、ボランティアなどには積極的に参加しましょう。 志力</p> <p>※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 教養力</p>			
未来開拓力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。	子どもを生き育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につけている。	子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、子どもの発達特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	子どもの発達特性や発達過程、保育などに関する知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート（提出） ○実習・課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート（考察） ○実習・演習への取組 ○発表 ○定期考査	○授業状況の観察 ○作品	○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1章 子どもの発達の特徴 ①生涯発達における乳幼児期の重要性 ②発達と環境 ③発達観・児童観とは 第2章 子どもの発達過程 ①身体発育と運動機能の発達 ②乳幼児期からの発育 ③乳幼児期の発達の特徴 ④人間関係の発達 ⑤心の発達 第3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事	<input type="checkbox"/> 生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。人との「かかわり」の大切さを知る。 <input type="checkbox"/> 保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在である子どもための社会環境や法制度のしくみについて理解する。 <input type="checkbox"/> 身体発達と運動機能の発達には一定の順序と方向性があることを知る。 <input type="checkbox"/> 乳幼児期の生理的特徴について知る。 <input type="checkbox"/> 愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。安全基地としての親の重要性について理解する。 <input type="checkbox"/> 子どもの育つ力と発達段階を知り、人生の初期における親・家族や周囲の人々のかかわりの大切さを学ぶ。 <input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣と社会的な生活習慣について理解し、その具体的な内容について知る。 <input type="checkbox"/> 食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割を持つことを認識する。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習（沐浴、幼児食など）などをおこない、4つの観点についての評価をおこなう。
後期	③子どもの衣服 ④子どもの遊びと生活 ⑤子どもの健康管理 第4章 子どもの保育 ①保育の意義と目標 ②保育の方法 ③保育の環境 第5章 子どもの福祉と子育て支援 ①子どもの福祉 ②子育て支援	<input type="checkbox"/> 適した衣服について知り、安全な衣生活について考える。おむつの使い方を理解する。 <input type="checkbox"/> 子どもの情操・感性・知的探究心などを豊かにするための児童文化財について知る。 <input type="checkbox"/> 子どもの健康を守るための保育者の役割を理解する。住まいに潜む危険について理解し、身近な場所の危険について考える。 <input type="checkbox"/> 人間形成の基礎を培う乳幼児期の大切さと保育の意義について考える。 <input type="checkbox"/> 発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 家庭での保育と集団保育のそれぞれの意義を学び、課題について考える。 <input type="checkbox"/> 子どもが育つ現在の環境にはどのような問題点があるかを知る。 <input type="checkbox"/> 母親の育児負担を減らすために何ができるか、周囲の人間と社会の両面から考える。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習（保育、おもちゃ作りなど）などをおこない、4つの観点についての評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 フードデザイン

科目	学年	単位数	教科書	副教材
栄養	3年	2	栄養 (実教出版)	

科目の目標	家庭生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、栄養面で健康の保持増進を担うために必要な資質・能力を身につける。			
学習活動	<p>・今まで学習した食分野の基礎を土台により専門的に学ぶよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、半分が実習・演習などの実践的・体験的な学習です。 教養力 思考力</p> <p>・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。 思考力 表現力</p> <p>※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。 協働力 省察力</p> <p>※実際に家庭で調理をしたり、日本の食を取り巻く現状を調べたり聞いたりすることは授業内容に理解を深めてくれます。 志力</p> <p>※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 教養力</p>			
未来開拓力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力	
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	ライフステージや病態時における食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけている。	現代の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。	栄養成分や消化吸収を考えた調理ができる。ライフステージや病態時に配慮した献立、調理が出来る技術を習得する。	栄養素の機能・消化吸収について知識を持つ。ライフステージや病態時の栄養について理解する。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート（提出） ○実習・課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート（考察） ○実習・実験への取組 ○発表 ○定期考査	○授業状況の観察 ○実習作品	○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1章 栄養とは 第2章 栄養素の機能と代謝 ①炭水化物 ②脂質 ③たんぱく質 ④ビタミン ⑤ミネラル ⑥その他の成分 第3章 消化と吸収 ①食欲 ②消化と吸収のしくみ 第4章 エネルギー代謝と食事摂取基準 ①エネルギー代謝 ②食事摂取基準 第5章 栄養状態の評価 ①栄養状態の評価と方法 ②集団の栄養状態の評価	<input type="checkbox"/> 栄養と栄養素、人体の構成成分と栄養素、食物の摂取、食物の消化と吸収について理解する。 <input type="checkbox"/> 各種栄養素の機能と代謝について理解し、栄養素などの過不足の視点から課題を発見し、その解決に向けて考える。 <input type="checkbox"/> エネルギー代謝や食事摂取基準について理解し、健康の保持増進に主体的に取り組む。 <input type="checkbox"/> 食事摂取基準と栄養状態から課題を発見し、その解決に向けて考える	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習・実験をおこない、4つの観点についての評価をおこなう。
後期	第6章 ライフステージ・ライフスタイルと栄養 ①乳幼児期 ②青少年期 ③成人期 ④高齢期 ⑤妊娠・授乳期 ⑥労働・スポーツと栄養 第7章 病態と栄養 ①栄養障害 ②病態時の栄養 ③食事療法 第8章 栄養と調理 ①調理による栄養成分の変化 ②調理と消化吸収率 ③栄養面から見た望ましい献立 第9章 食生活の展望と栄養増進 ①日本人の栄養摂取 ②食生活と栄養増進	<input type="checkbox"/> ライフステージにおける身体的・生理的特徴と各期の栄養の特徴について理解する。 <input type="checkbox"/> ライフステージにおける栄養の課題を発見し、その解決に向けて考える。 <input type="checkbox"/> 生活活動強度の軽重や活動時間の長短による生理的特徴を踏まえ、それに応じた栄養と食事構成を考える。 <input type="checkbox"/> エネルギーや栄養素の過不足による主な病態と食事療法、病態に応じた栄養と食事構成について理解し、健康の保持増進に主体的に取り組める。 <input type="checkbox"/> 各ライフステージ、労働、スポーツ、病態時に適した献立を考え、栄養の摂取・消化吸収のよい調理ができる。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習・実験をおこない、4つの観点についての評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 スポーツ概論

科目	学年	単位数	教科書	副教材
スポーツ概論	3年	2		

科目の目標	スポーツについての総合的な理解を通して、その知識を運動の主体的、合理的、計画的な実践に活用できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。		
学習活動	①スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解し、スポーツの推進や発展に必要な技能を身に付けます。 教養力・思考力・表現力・志力 ②スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養います。 思考力・表現力・省察力 ③球技大会や体育大会の企画・運営を通して公正な態度や、互いに協力して責任を果たすなどの態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して大会運営をすることができる能力を身に付けます。 思考力・表現力・省察力・協働力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	スポーツへの 関心・意欲・態度	スポーツについての 思考・判断	スポーツについての 知識・理解
	社会の変化に伴うスポーツの意義や必要性、各種の運動の特性に関心を持ち、生涯にわたってスポーツに親しめるように進んで学習に取り組もうとする。 運動技能の構造と運動の学び方について関心をもち、技能の上達を目指して進んで学習に取り組もうとする。	スポーツの意義、必要性、文化的特徴をふまえて生涯スポーツへのかかわり方について、整理したりしている。 ・運動技能の構造を整理したり、自分に適した運動及び学び方を見つけたりしている。	スポーツの意義や必要性、生涯スポーツへのかかわり方を知っている。 運動種目の歴史的背景や運動技能の構造等を知っている。 体力の向上を図る運動の構成や運動プログラムを作成する方法を知っている。
評価方法	○確認テスト ○授業状況の観察 ○課題、ノートへの取組	○確認テスト ○授業状況の観察	○確認テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>(1)スポーツの歴史・文化的特性と現代の特徴</p> <p>(2)スポーツの効果的な学習の仕方</p> <p>(5)スポーツの企画・運営及び管理</p>	<p><input type="checkbox"/>スポーツの歴史と発展について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの技術や戦術、ルールが用具の改良やメディアの発達に伴い変化し続けていることについて理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>オリンピックの意義やドーピングについて理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>現代のスポーツが経済的側面に大きく影響を及ぼしていることを理解する</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの技術と技能、技術の習得の仕方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの上達過程や練習方法、課題の設定の方法について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの技能と体力の関連や高め方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツを行う際の安全性の確保について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ大会の企画の仕方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ大会の実施に向けたルールの決定や審判の仕方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ大会の運営の方法について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>球技大会や体育大会の企画、運営を行う。</p>	<p>講義型授業や実習、レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>
後期	<p>(3)豊かなスポーツライフの設計</p> <p>(4)スポーツの指導法と安全</p> <p>(5)スポーツの企画・運営及び管理</p>	<p><input type="checkbox"/>ライフステージにおけるスポーツの多様な楽しみ方やかわり方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの振興は、様々な施設や組織、人々の支援や参画によって支えられていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツを行う際は、環境への配慮など、持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの一般的な指導法について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツは指導法は参加動機に応じて工夫する必要があることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ参加者の健康や安全の確保の仕方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>球技大会の企画・運営を行う。</p>	<p>講義型授業や実習、レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 スポーツⅡ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
スポーツⅡ	3年	2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)

科目の目標	球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。			
学習活動	①ゴルフの合理的、計画的な実践を通して、専門的な技術や高度な技能を高め課題の解決に向けて取り組むことにより、ゴルフのもつ特性や魅力に触れ、楽しさや喜びを深うためのポイントを身に付けます。 教養力・思考力・省察力 ②ゴルフの学習を通して、生涯を通してのスポーツ振興にかかわることができる資質や能力を身に付けます。 教養力・思考力・省察力・志力 ③競技会の実施や練習を通して、公正な態度や、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たす態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して運動することができる能力や態度を身に付けます。 思考力・省察力・表現力・協働力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力			
評価の観点及び評価規準	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	知識・理解
	技能習得に対して意欲的に取り組み、楽しさや喜びを味わおうとする。自分の役目を果たし、互いに教え合い、協力して活動しようとしている。技能習得に対して意欲的に取り組み、楽しさや喜びを味わおうとする。自分の役目を果たし、互いに教え合い、協力して活動しようとしている。	自分の能力に応じた適切な課題を設定している。課題解決のための適切な練習内容や方法を工夫している。技能レベルに応じてプレーのマネージメントができる。	自分の能力に応じた技能を身に付けプレーすることができる。練習を通して個人的技能を高めることができる。自分の能力に応じた技能を身に付けプレーすることができる。	種目の特性や学習の進め方、合理的な練習の仕方、練習計画の立て方を知っている。ルール、審判法及び競技会の企画や運営の仕方を知っている。
評価方法	○活動状況の観察 ○課題への取組	○グループ活動状況の観察 ○グループノート記入 ○感想レポート	○パフォーマンステスト ○新体力テスト ○授業状況の観察	○知識理解テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	オリエンテーション I ターゲット型球技 ・グランドゴルフ ・ターゲットバードゴルフ II ターゲット型球技 ・ゴルフ	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。 <input type="checkbox"/> 授業ノートを用い、トレーニングの原則に沿った綿密な計画を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、活動することができる。 <input type="checkbox"/> 専門的な技術の習得や高度な技能の上達を目指して、意欲的に学習（練習）に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、4つの観点について評価をおこなう。
後期	II ターゲット型球技 ・ゴルフ	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。 <input type="checkbox"/> 授業ノートを用い、トレーニングの原則に沿った綿密な計画を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、活動することができる。 <input type="checkbox"/> 専門的な技術の習得や高度な技能の上達を目指して、意欲的に学習（練習）に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	学習活動」の①をおこない、4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 音楽理論（3年）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽理論	3年	2	MOUSA 2 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。			
学習活動	・音楽方面での進学希望者を対象とした講座です。実技試験に対応した、副専門的な内容（新曲視唱・聴音・楽典）を学習します。 教養力・思考力・表現力・省察力・志力 ・表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、受講者に応じた学習活動を行います。 教養力・思考力・表現力・省察力・志力			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○鑑賞レポート	○授業状況の観察 ○実技テスト ○作品提出 ○演奏発表	○授業状況の観察 ○実技テスト ○筆記テスト ○演奏発表	○授業状況の観察 ○鑑賞レポート ○筆記テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
右記の内容を年間を通して学習する	<p>■ 歌唱</p> <p>ソルフエージュ</p> <p>新曲視唱</p> <p>日本歌曲</p> <p>イタリア歌曲</p> <p>■ 器楽</p> <p>選択曲</p> <p>■ 創作</p> <p>楽典</p> <p>聴音</p> <p>■ 鑑賞</p> <p>西洋音楽史</p> <p>日本音楽史</p> <p>様々な時代・様式の楽曲演奏者による表現の比較</p>	<p><input type="checkbox"/> 各種の音程を正しく把握し、美しい発声で歌唱する。</p> <p><input type="checkbox"/> 新曲視唱の学習を通してフレージングなど根拠ある表現力を高め、各専門領域の表現にいかす。</p> <p><input type="checkbox"/> 言葉と音楽の関わりをもたせ、美しい表現を工夫する。</p> <p><input type="checkbox"/> 専門領域の楽器(または声楽)による表現を工夫し、確かな技術をもって演奏する。</p> <p><input type="checkbox"/> 音楽を形づくっている要素を理解し、鑑賞・歌唱・器楽の学習に活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 楽譜の仕組みを理解し、正しい記譜の仕方を学ぶ。</p> <p><input type="checkbox"/> 旋律および和声の聴き取りを行い、音高やリズムに対する感覚を養う。</p> <p><input type="checkbox"/> 音楽の歴史を学び、歴史的背景や作曲家などについて理解した上で、表現活動に繋げることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 各時代や楽曲様式を特徴付ける楽曲を鑑賞し、理解を深める。また、客観的に鑑賞する力を高める。</p>	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。作品の創作にも取り組む。年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
素描	3年	2 文系	高校美術 2 日本文教出版	なし

科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
学習活動	・進路に必要な実技を身につける科目です。 教養力・思考力・表現力・省察力・協働力・志力 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱うなど柔軟に学びます。			
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・見解のための知識・技能	思考力：倫理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	日常生活における美術やデザインの持つ役割や美術文化について幅広く理解し、その価値を考え、作品のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■デッサン1 ・幾何形体 ■デッサン2 ・手 ■デッサン3 ・自画像 ■デッサン4 ・石膏像 	<input type="checkbox"/> 立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通)	様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■進路により課題(石膏デッサン、静物デッサン、構成デッサンなど)を選択する 	<input type="checkbox"/> 立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通)	様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 特別活動 3年次生

目 標	<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>■ホームルーム活動</p> <p>(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画 (2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現</p> <p>■生徒会活動</p> <p>(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2)学校行事への協力 (3)ボランティア活動などの社会参画</p> <p>■学校行事</p> <p>(1)儀式的行事 (2)文化的行事 (3)健康安全・体育的行事 (4)旅行・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事</p>		
未来開拓力	<p>教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能</p>	<p>思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力</p> <p>表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力</p>	<p>省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力</p> <p>協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力</p> <p>志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力</p>
評価の観点及び評価規準	<p>よりよい生活を築くための知識・技能（A）</p> <p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身につけている。</p>	<p>集団や社会の形成者としての思考・判断・表現（B）</p> <p>集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる。</p>	<p>主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度（C）</p> <p>自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ることができる。</p>
評価方法	<p>○行動観察</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○自己評価</p>	<p>○行動観察</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○自己評価</p>	<p>○行動観察</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○自己評価</p>

年間指導計画

領域	活動内容	評価の観点					
		A	B		C		
		教養力	思考力	表現力	省察力	協働力	志力
	<input type="checkbox"/> レクリエーション					○	
	<input type="checkbox"/> 読書会		○	○			
	<input type="checkbox"/> 進路LHR (志望進路選択)						○
	<input type="checkbox"/> 進路LHR (大学入試システム)						○
	<input type="checkbox"/> 千鳥祭準備					○	
	<input type="checkbox"/> 「STANDBY」説明会	○					
	<input type="checkbox"/> 科学エキスパート講演会	○					
	<input type="checkbox"/> 交通安全講演会	○					
	<input type="checkbox"/> 心と命の講演会	○					
	<input type="checkbox"/> 主権者教育	○					
	<input type="checkbox"/> 探究活動		○	○			
生徒会活動	<input type="checkbox"/> 新入生歓迎行事	○				○	
	<input type="checkbox"/> 千鳥祭ブロック結団式					○	
	<input type="checkbox"/> 千鳥welcomeデー			○		○	
	<input type="checkbox"/> 生徒総会		○	○			
	<input type="checkbox"/> 生徒会役員選挙		○				
	<input type="checkbox"/> 各種委員会活動					○	○
学校行事	<input type="checkbox"/> 入学式・卒業式				○		○
	<input type="checkbox"/> 始業式・終業式				○		○
	<input type="checkbox"/> 芸術鑑賞	○					
	<input type="checkbox"/> 千鳥祭 (文化祭)			○		○	
	<input type="checkbox"/> 身体計測				○		
	<input type="checkbox"/> 球技大会			○		○	
	<input type="checkbox"/> 体育大会			○		○	
	<input type="checkbox"/> 防災訓練	○					
	<input type="checkbox"/> 社会貢献活動						○
	<input type="checkbox"/> 千鳥ボランティア						○

※この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。